

# 研究所 所報

2024年2月 No.168

社会・地域の出来事や課題を  
「自分事」として捉え、  
自ら考え、判断し、行動する子どもを育てるために  
～シティズンシップ教育実践集～



静岡県教職員組合立教育研究所

シティズンシップ教育研究委員会



研究所 HP

# 目 次

巻頭言 シティズンシップ教育の歴史と現在……………	2
共同研究者 井柳 美紀	
2年間の委員会活動をふり返って……………	4
共同研究者 三浦 哲司	
実践1 町の人と仲良くなろう……………	6
小学校特別支援学級 総合的な学習の時間 芹沢 相信 (牧之原市立相良小学校)	
実践2 学校・学級の一員として……………	10
小学校1年 生活科 坂本 成海 (磐田市立豊田東小学校)	
実践3 主体的に参画する子～シティズンシップ教育の種をまく……………	12
小学校 学級会 児童会活動 佐藤 香織 (富士市立丘小学校)	
実践4 「しずおか学」から始まるドリームマップ ～地域と関わりながらキャリアを自分事としてとらえる実践～……………	16
小学校6年 総合的な学習の時間 青山 千秋 (静岡市立足久保小学校)	
実践5 「なりたい自分」について考える～地域の方から学ぶ生き方～ ……	20
小学校6年 総合的な学習の時間 松井有理子 (磐田市立豊田東小学校)	
実践6 様々な表現方法を使うことで、自分の思いを伝えられるように……………	24
中学校2、3年 道徳科 加藤 祐子 (伊東市立南中学校)	
実践7 身近な地域の環境問題から考えるシティズンシップ ～沼津コンビナート計画問題から考える環境権～……………	28
中学校3年 社会科(公民) 今泉 伸隆 (沼津市立第一中学校)	
実践8 稲取のためにできること……………	32
中学校 英語科 生徒会活動 山本百合奈 (東伊豆町立稲取中学校)	
実践9 実践募集から 自分たちのまちをよりよくする政策を考える ／キャリアプランニング能力の育成をめざして……………	36
小学校6年 社会科・総合的な学習 鈴木伊織・飯田千広 (湖西市立東小学校)	
2年間の研究をふり返って……………	40

## シティズンシップ教育の歴史と現在

井柳 美紀

共同研究者 静岡大学人文社会科学部教授



### <シティズンシップ教育とは？>

シティズンシップ教育とは日本語に訳せば、市民性教育のことであり、もっと平たく言えば、市民であることのための教育とすることができるだろう。つまりシティズンシップ教育とは、学校教育において、人間としてあるいは職業人として生きるのみならず、社会の中の市民として生きていく上で必要な資質を身に付ける教育のことである。選挙権年齢や成年年齢が引き下げられた背景には、世界の潮流になった面もあるが、少子高齢化の社会において、若者人口が少ない現在の日本において、若い世代が社会の一員として、あるいは社会の形成者として早い段階から活躍し社会を主導することが期待される、といったことがあると言えるだろう。

### <民主政治の歴史とシティズンシップ教育>

シティズンシップ教育という言葉とほぼ同義で用いられる言葉に、主権者教育、政治教育といった言葉がある。政治教育という言葉は、歴史的には、19世紀に選挙権が普及する過程で用いられるようになったと言ってもよいだろう。当時、イギリスでは、女性を含む男女の普通選挙制を説いたJ.S. ミルは、そのための学校教育の重要性をも説いた人物であり、さらに地方自治や陪審制などを導入して人々が政治に参加し考える機会をもつことを重視し、これらをもって政治教育と呼んだ。フランスにおいて公教育の父と言われるコンドルセもまた政治教育を重視したごく初期の人物であった。つまり、普通選挙制、そして民主政治が拡大しようとする時代において、教育の現場で、政治に参加する市民を育成することは重要なことだったわけである。

### <戦後日本の民主主義と政治教育>

一方、日本の歴史を紐解いても、戦後文部省が発行した教科書『民主主義』は、まさに戦後民主主義の出発時において、民主主義とは何かを中学生や高校生などに示そうとしたものである。この教科書では、民主主義の仕組みのみならず、学校内の民主主義について、教師と生徒、生徒同士の関係における民主主義についても言及する意欲的なものであった。しかし、戦後の日本政治の流れの中で、政治的中立性が強調されるようになると、この教科書は消え、学校現場で政治を扱うことは避けられる傾向が続く。ある教育学者は日本の戦後の歴史を、「大人が若者を政治から遠ざけてきた」だと捉え、それらの流れが現在の若者の政治的無関心を作ったと述べている。

## <選挙権年齢の引き下げと主権者教育>

そのような中で、2015年の公職選挙法の改正による選挙権年齢の引き下げによって、主権者教育の重要性に注目が集まるようになる。この時、文部科学省は、かつて政治的中立性を重視し、政治に関する教育については慎重にすべだきと説いた昭和44年の通知を廃止し、新たな通知において「現実の具体的な政治的事象を取扱うこと」などを明記し、若い人達が、単に政治的知識だけではなく具体的な政治の中で自ら判断できるよう求めることになる。この文科省の通知については、これを転換として高く評価する見方がある。さらに踏み込んだ対応を求める声もあるが、新たな段階に入ったことは確かなように思う。そのような中で、主権者教育が重視され、高校新設科目『公共』などにも盛り込まれる。主権者教育は、投票者教育と同義的に捉えられることがあるという意味では狭すぎる概念とも言えるが、しかし学校教育の中で投票や政治を教えることの重要性を説くという点では意味あるものと言うこともできるだろう。

## <シティズンシップ教育>

一方、世界的にはシティズンシップ教育という言葉が一般に用いられる。そして、日本の現在の主権者教育の考え方にも、イギリスのシティズンシップ教育の考え方が反映されていると言ってよいだろう。少なくとも文科省と総務省が作成した主権者教育用の副読本はそう言える。イギリスでは、ブレア政権下でも、投票率低下などを背景に、シティズンシップ教育が必修化され、その中で、知識だけではない、技能（スキル）も含めたシティズンシップ教育の重要性が説かれることになる。シティズンシップ教育といったほうが概念としては広がりをもつだろう。市民として必要な資質や身に付けるべき点をどこに見出すのか、その答えは様々であり、シティズンシップ教育に関する世界の教科書をみるとその内容も多様である。しかし、閉塞感ある日本において将来を担う若い人達たちが、受動的な立場ではなく、むしろ積極的な立場で社会の形成に関わり主導することは何より期待されるべきことだと思われる。そのために教育に何ができるのか、シティズンシップ教育、主権者教育に期待されることは大きいだろう。

## 2年間の委員会活動をふり返って

三浦 哲司

共同研究者 名古屋市立大学人文社会学部准教授



### 1 シティズンシップ教育の重要性の再認識

少し前に、チームドラゴン桜『なぜか結果を出す人が勉強以前にやっていること』東洋経済新報社、2023年、という本を読みました。というのも、私が日々の生活でさまざまな人と接するなかで、仕事や研究で優れた結果を生み出している人は、日頃からどのような習慣づけを行っているのか、という点に関心があったからです。この本によると、結果を出す人は日常生活のあらゆる場面で、どんなに小さなことでも常に「なぜ」「どうして」と問いを立てているそうです（例としては「なぜ『生服』ではなく『制服』という漢字なのか」という問いが書かれていました）。こうした姿勢を幼少期から身に付けておくことで、自然と「なぜ」「どうして」と発問できるようになり、また自分なりの回答も導き出せるようになります。結果として、5年、10年と時間が経過していくと、結果を出す人とそうでない人のあいだで大きな差が生じることでした。

シティズンシップ教育研究委員会では、シティズンシップ教育とは「国や社会の出来事や問題を『自分事』として捉え、相手の立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、判断し、行動する力を育てる教育」と定義しています。この定義をふまえると、まさにシティズンシップ教育とは「なぜ」「どうして」という問いを立てられるようになるための格好の機会といえるのではないのでしょうか。換言するならば、シティズンシップ教育を通じて、子どもたち一人ひとりが自らの興味関心に即して「なぜ」「どうして」と発問し、熟考の末に自らの答えを導き出せるように促していくことが大切といえましょう。

### 2 今期の委員会で感じたこと

今期の所員の先生方の2年間にわたる実践報告をとおして、小学校においても、中学校においても、数多くの興味深いとりくみが展開されている状況を、あらためて把握することができました。私は地方自治やまちづくりを専門とする研究者ですが、所員の先生方の報告には、地域の伝統文化をどのように継承していくか、公害の歴史を風化させないために次の世代へとどのように伝えていくか、地域の魅力をどのように掘り起こしてどのように発信していくかなど、学術研究でも課題となっている内容が含まれていました。なかには、実際に地域の方々の協力を得ながら、課題解決をめざして活動するとりくみも看取されました。地方自治やまちづくりにおいては、どれほど小さなことでもいいので、まずは行動・実践し、それを積み重ねていくというスモールステップの重要性が説かれています。所員の先生方の実践は、まさにこうした方向性と親和的であると認識したしだいです。

さて、毎回の委員会の場で所員の先生方の実践報告をお聞きするなかで、私が特に印象的に感じたのは、以下の点です。それは、シティズンシップ教育には、学校が地域と接点をもつための入り口としての可能性を包含している、という点です。わが国にはコミュニティスクール(学

校運営協議会制度)をはじめとして、学校と地域との連携を促すさまざまな制度や構想が存在しています。ここで重要なのは、単に制度や構想を整備するだけでなく、いかにして実践していくか、という点となります。たとえば、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)に関しては、文部科学省は「輝く子供たちの未来の創造に向けて、学校と地域がパートナーとして連携・協働によるとりくみを進めていく」ことをねらいとして位置づけています。そうであるならば、学校と地域との連携・協働の実践が問われるわけですが、全国的にみると、なかには実践が伴わずに形骸化している例もみられないわけではありません。

こうしたなかで、所員の先生方の実践報告には、地域との接点を持ち、さまざまなかたちで児童・生徒の興味関心を促す実践が数多くみられました。具体的には、たとえば商店街や公共施設の現場に出向いて関係者にインタビューを行ない、さまざまなお話を聞き取るという実践、あるいは、つるし飾りという地域の伝統文化に注目し、地元住民と交流しながら制作するという実践、などがあげられます。もちろん、これら以外にも、所員の先生方の実践報告からは、今後の地域との連携・協働の起点となるような優れたとりくみ内容が多数把握されました。

ちなみに、大学においても地域との連携・協働は重要な課題であり、特に私が所属する公立大学にとっては、地域貢献は極めて重要な使命として位置づけています。それゆえに、私もさまざまな地域連携活動にとりくんできたわけですが、その際には以下の2点に留意する必要があると認識しています。第一は、大学にとっても、地域にとっても、それぞれに連携をとおしたメリットがある、という点です。地域連携の基本は「win-winの関係」となります。言い換えると、片方だけにメリットが生じるだけでは、早晩、連携のとりくみは行き詰まることになるでしょう。第二は、テーマを絞り、期限を区切って連携する、という点です。テーマ設定があいまいなまま、延々と連携のとりくみを継続しても、いつまでもゴールにはたどり着くことができません。こうした事態を回避するために、あらかじめ連携の枠組みで何を、どの期間で、どこまでとりくむかを明確にしておくことが重要となります。こうした点は、小学校や中学校における地域連携の実践においても、共通するところがあるのではないのでしょうか。

### 3 今後の展望

日々、刻々と変化する現代社会において、これまで以上に「自ら問いを立て、その答えを導き出す能力」が子どもたちに求められています。その答えというのも、必ずしも正解があるわけではなく、むしろ周囲の人々を納得させられる「納得解」である場合が多いのが実情でしょう。このような時代状況のなかで、学校現場における日頃からの教育というのは、子どもたち一人一人の人生を左右し、さらには地域や社会を変えていく可能性を含んでいると考えます。

今回の所員の先生方による実践報告は、いずれも子どもたちや地域・社会の成長・発展に寄与する内容でした。ぜひとも、今回の成果を教育現場で活かし、また各支部・各単組の活動のなかで共有していただきたいと願っています。そうした積み重ねが、本研究所のシティズンシップ教育の理念の広がりにつながると認識しています。その先では、わが国の子どもたちの健やかな成長、そして明るい未来が展望できるのではないのでしょうか。

## 町の人と仲良くなろう

牧之原市には、農業、工業、観光業など、様々な魅力あるものがたくさんあります。また、学校の近くには、二つの商店街があり、衣食住に関わる様々な種類の店が並び、昔から続く店が多く残っています。

将来の生きる力を育むために、たくさんの人と交流できる機会を作りたいと思いました。シティズンシップ（市民性）を育むという視点で、まず、子どもたちが町の人と関わりをもつことが大切だと考えました。

本校の特別支援学級は、知的学級 2 クラス、自閉・情緒学級 2 クラスの 4 クラスです。知的学級 16 人、自閉・情緒学級 10 人の合計 26 人が在籍しています。人との関わりを苦手としている子どもが多く、日常の様々な場面で困難さを抱えています。新しい場所や知らない人に対して苦手意識のある子どもたちの活動範囲を広げることが大切だと考えました。子どもたちには町探検を通して、自分たちの生活とのつながりを学び、町の魅力やそこで働く人の温かさに気付き、町への愛着や親しみをもつようにしていきたいと考えました。

### ◇ 授業の具体

指導者 芹沢 相信（牧之原市立相良小学校）

#### 1 単元目標

牧之原市の有名なものを調べたり実際に施設を体験・見学したりする活動を通して、町の魅力やそこで働く人たちの温かさに気付き、自分たちの町へ親しみや愛着をもつことができる。

めざす子ども像	自立・共生・創造		
資質・能力 本単元における探求	知識・技能の基礎	思考力、判断力、 表現力の基礎	学びに向かう力、 人間性等
牧之原市の魅力とは何か。  町の人たちの工夫や努力、思いとは何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧之原市の有名な施設や農産物についてインターネットや本を使って調べることができる。</li> <li>・ 調べたり見学したりして学んだことを資料にまとめることができる。</li> <li>・ 店の人の思いや工夫を知ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設で働く人や一般客に迷惑をかけないような行動を考えることができる。</li> <li>・ 調べた内容を相手がわかりやすいように説明をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人とかかわる中で、地域の人たちの温かさを感じることができる。</li> <li>・ 店の人や買い物客に失礼のない態度で探検に臨むことができる。</li> <li>・ 町のよさを家の人や学校の友だちに伝えることができる。</li> </ul>

## 2 実践内容

### (1) 商店街で買い物体験

商店街にある種苗店で夏野菜の苗を購入した。実際に植える苗を自分で選び、時間はかかったが、支援学級 26 人一人一人に、財布からお金を出して買う経験をした。商店街の人ならではの、温かい対応に子どもたちも喜んだ。



### (2) イチゴ収穫体験

相良小学校に在籍する子どもの家でイチゴ畑を営んでいる家庭があり、イチゴの季節の終わりに近づいたとき、イチゴ狩りを行った。また、地域で育てられている有名な品種などについて学び、色々な種類のイチゴの特徴を勉強した。



### (3) 大鐘家見学

「国の重要文化材」に指定されている約 300 年前の建築物を無償で見学した。つるし雛や米蔵の資料館を見て子どもたちは、昔の物がきれいに残されて感動した。また、10000 株のあじさい畑にも驚いた。



### (4) サーフスタジアム体験

2021 年にオープンした、日本初の大型サーフィン用ウェーブプールを無償で体験した。子どもたちは、波打ち際で波を楽しんだ。後日、家族を連れて施設を訪れた子どももいた。



### (5) グリンピア牧之原見学

牧之原市の名産品であるお茶の加工工場を見学した。仕上げ加工から袋詰めまでの工程を見ることができ、工場見学後は、実際に作られているお茶を飲んだ。また、歴史を学んだり、機械を見たりすることもできた。



(6) トウモロコシ収穫体験

特別支援学級では、学校給食で使用するトウモロコシの皮むきを6月頃行っている。地域のトウモロコシ畑が提供していることを聞き、収穫体験を申し込んだ。自分たちで実際に収穫したトウモロコシを食べて子どもたちは喜んだ。



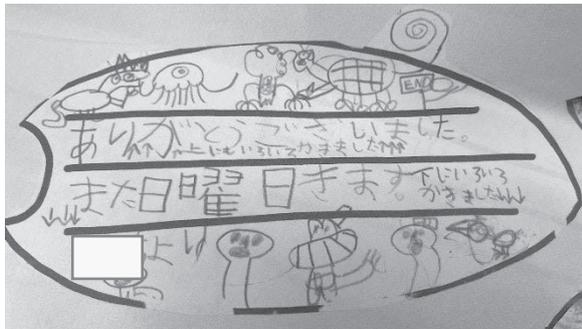
(7) 富士山静岡空港見学

昨年度、特別支援学級では、空港見学を4回行い、空港で得た施設や乗り物についての劇を全校と保護者に披露した。本年度から支援学級に入級した子どもが複数人いたため、昨年度までいた子どもたちが教える機会として空港見学を行った。

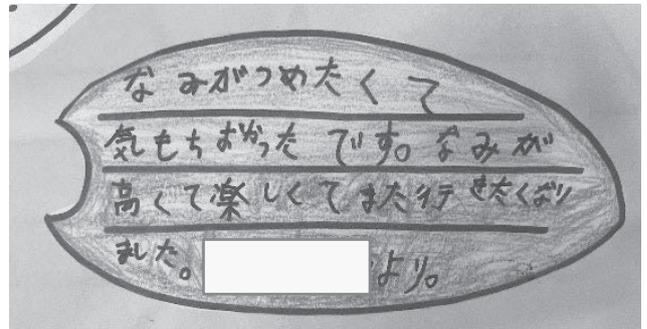


3 成果と課題

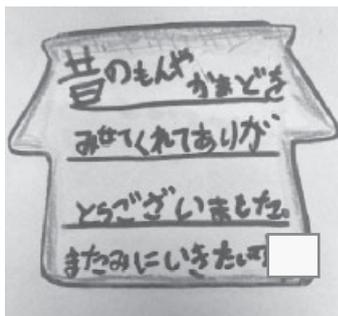
○お礼の手紙を子どもたちが意欲的に書き、見学後に家族とともに再度施設を訪れた子どもがたくさんいた。このことから、初めての人や場所を苦手とする子どもが多い中、見学を通して新しいコミュニティが広がったと感じた。



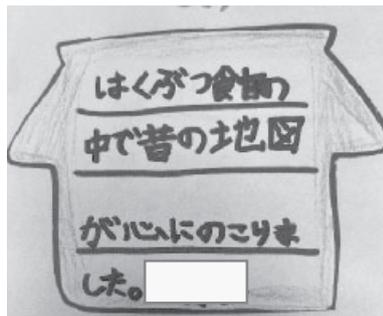
波のプールの楽しさをたくさんの絵を描くことで表現したA



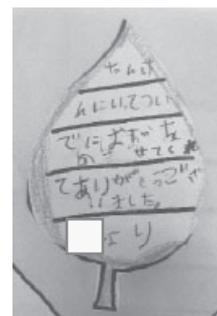
週末に家族や友達と一緒に波のプールに行ったB



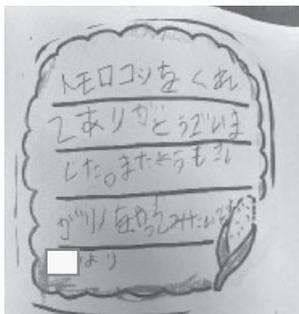
家族を連れて行って色々説明したC



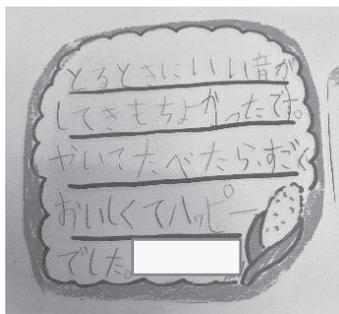
歴史の勉強が好きなD



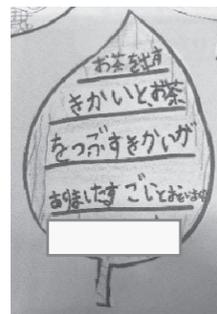
すごく濃い味のアイスを食べに行ってきたE



うまくできず農家の方と一緒に収穫したF



トウモロコシをととてもおいしそうに食べたG



機械を間近で見ても感動したH

○地域の方から温かい言葉をたくさん受け取った。子どもたちに伝えることで町の人の温かさを感じることができた。

- ・町にとって「子どもは宝」だよ。いつでも好きな時に来てくださいね。(ケーキ屋さん)
- ・ちょっとくらいうるさくなくてもいいよ。うちのお客さんならみんな許してくれるよ。(ふとん屋さん)
- ・また学校に植え方を教えに行くよ。お手紙ありがとう。嬉しかったからお店に飾ってあるよ。(苗木屋さん)



○どの見学場所でも、地域の方に優しく子どもたちの言葉を受け入れてもらい、うまく話ができなかった子どもたちの質問に対しても誠実に受け答えをしてもらえた。子どもたちのふり返りの言葉から、充実した見学だったことや新しい人に出て話をする自信がついたことがわかった。

町の人から色々なことをやさしく教えてくれて  
嬉しかったです。家の人を連れて、商店街で  
買い物に行きました。ぼくのオススメは  
ボンジュールのソーセージパンです。

知らない人と話すのが苦手なI

まきの家はよしにはたのしい  
ところがたくさんありよ  
したまたいきたいです。

文字を書くのが苦手で、  
普段は文章をまったく書かないJ

○人との会話や大人数がいる場所を苦手とする子どもが多くいたが、異学年でペアを組んだことで、高学年が低学年の手助けをする場面が見られた。それにより特別支援学級内での仲が、さらに深まったことを感じた。

◇ 2年間の研究をふり返って

榛原地区の小学校は、地域とのつながりが深い学校が多く、コミュニティ・スクールがすすんでいる現在、どの学校でも総合的な学習の時間や社会科を通して、地域の方と、協働してきました。特にCSD（コミュニティ・スクールディレクター）が各校に配置されてからは、地域の材（魅力）を生かしたとりくみが各校ですすめられています。今回、牧之原市の商店街や施設を巡ったことで、子どもたちだけでなく教員である私自身も地域の方の温かさに触れることができました。「子どもは宝」と言ってくださった地域の方の声のように、子どもたちの未来を支える「生きる力」をこれからも育てていけるよう頑張っていきたいです。

## 学校・学級の一員として

1年生の子どもたちは、身の回りの出来事に興味をもち、積極的に関わっています。しかし、「周りの人にやってもらって当たり前」「誰かについていけば問題ない」と思っている様子も見られます。

1年生の発達段階の中でも、学校生活の中で人、もの、ことと関わることを通して、自分が様々な人と共に生きていることや、学校や学級を作る一員として、よりよい生活のために自分で考えて動くことのよさを感じられる姿を願っています。そのために、学校内外の多くの人やもの、ことにふれたり、自分のため・周りのために考えて行動したりする機会を増やそうと考えました。

### ◇ 授業の具休

## 生活科 学校の地図を作ろう

指導者 坂本 成海（磐田市立豊田東小学校）

### 1 単元名 「がっこう だいすき」

### 2 単元の見標

学校を探検する活動を通して、学校の施設とその役割、学校にいる人々とその活動を考えるとともに、自分も学校の一員であることがわかり、楽しく安心して学校生活を送ることができる。

### 3 実践内容

#### (1) 計画 1時間

教室の場所や教員の名前をだんだんと覚えてきた子どもたち。学校について調べ、豊田東小学校の秘密ブックを作ることにした。子どもたちは、年長のときに小学校に招待され、一緒に遊んだり学校案内をしてもらったりしたことがあった。その経験から、「幼稚園の子に学校のことを紹介したい」「入学するのがわくわくするような地図にしたい」と声が上がった。

今回は、一人一部屋ずつ担当を決め、それぞれ調べることにした。担当場所は、「お姉ちゃんがいるクラスに行きたい」「入ったことがないから行ってみたい」と子どもが自分で選んだ。

また、学校探検用の地図には載っていなかった部屋も行ってみたいという声上がり、放送室や配膳室も調査に加えることにした。

#### (2) 調査 2時間

一人一部屋の調査になるため、事前に調査の内容や方法を確認した。

調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どんな人がその教室を使っているか。</li> <li>• どんなものがあるか。(その部屋にしかないもの、おもしろいと思ったものなど)</li> </ul>
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 幼稚園の子がわかるように、絵や言葉を使ってまとめる。</li> <li>• 他のクラスが使っている部屋には入らない。部屋の後ろから見る。</li> <li>• 教員のいる部屋は、入ってよいか聞いてから入る。</li> <li>• 時計を見て教室に戻る。</li> </ul>



「このクラスにはガチャガチャがあるよ。ぼくもやってみたい」と興奮して絵を描いている子や、いつも遊んでくれる上級生が真剣に授業にとりくむ様子に驚いている子がいた。「邪魔にならないように静かにしなきゃ」と気を付けている子や、職員室・校長室では自分で「失礼します」と部屋に入り、教員にすすんで話を聞いている子など、学校にいる人と積極的に関わることができた子もいた。



(3) 発表とふり返り 1時間

4人グループで、自分の調査した教室を紹介した。調査した教室のおもしろポイントやお気に入りポイントを、描いた絵と共に伝えた。発表を聞く人の中には、相槌を打ったり質問をしたりしている姿も見られた。

子どものふり返りより
<ul style="list-style-type: none"> <li>理科室のがいこつは、本物みたいでびっくりした。</li> <li>5年2組は楽しそうでした。勉強が難しそうでした。</li> <li>みんなの発表がおもしろかった。</li> <li>友だちが教えてくれたものを見てみたい。</li> <li>早く幼稚園の子に見せたい。</li> </ul>



自分の発見はもちろん、友だちの発表の感想や、地図を使ってもらう相手のことを考えたふり返りを書いている子もいた。

4 授業の成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と関わる人たちとのつながりができ、自分も学校の一員だという実感をもつことができた。</li> <li>相手を意識して活動することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の教室や他学年の授業の様子を見て、自分たちと比べながら日々の生活にも生かせるようにも意識したい。</li> </ul>

◇ 1年間の研究をふり返って

これから学習の基礎や人間関係づくりの基盤を作っていく1年生の子どもたちと一緒に何ができるか、シティズンシップ教育の視点から考えました。まずは、子どもたちの生きている社会「学校」について知ることから始めました。昨年度は幼稚園などで一番のお兄さん、お姉さんだった子どもたちですが、小学校に入ると「大丈夫かな？」と心配してもらう側に回ります。そんなギャップがある中でも、「幼稚園の子に優しくしてあげたい」「立派な小学生になりたい」「上級生のようにになりたい」という思いが、子どもたちの言動から多く見てとれます。係活動の内容も、自分たちで考えて実践しています。子どもたちが願う「こんな風になりたい」を叶えられる学級であることをめざしていきます。

## 主体的に参画する子～シティズンシップ教育の種をまく～

毎日子どもたちと過ごす小学校だからこそできる、身近で、いつでもできそうなシティズンシップ教育の種を探そうと研究にとりくみました。そこで着目したのは、学校の教育活動へ子どもたちが主体的に参画する機会を作ることです。主権者として民主的に決めていくという視点を加えることで、小学校段階におけるシティズンシップ教育をめざせないかと考え、様々な実践を行いました。特に委員会活動では、各委員会の担当が子どもの思いを上手に引き出しながらとりくみました。

### ◇ 実践の概要

指導者 佐藤 香織（富士市立丘小学校）

2022年度より、高等学校公民科の必修科目「公共」がスタートした。目標改定の一つに、「主権者として社会の発展に寄与する態度を養うこと」が挙げられる。また、こども家庭庁が発足し、富士市では「子ども権利条例」を定め、「子どもの意思表示と参加」を挙げている。子どもの意見を尊重するとともに、意見を表明する力を付けることもシティズンシップ教育につながると考えた。

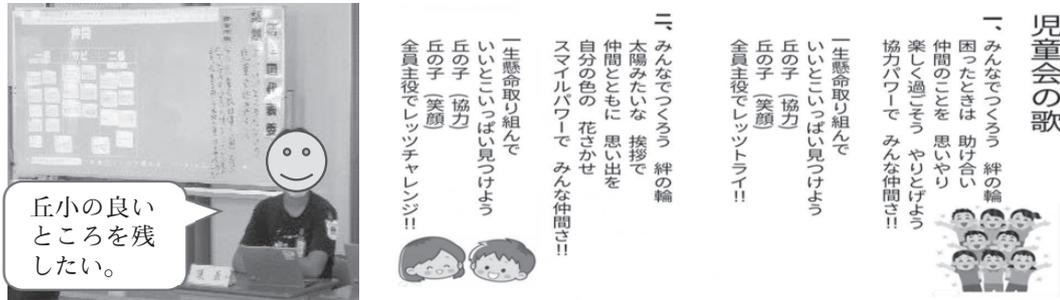
小学生にとっては学校こそが小さな社会である。昼休みの遊びを一つ決めることも意見を表明する力につながるのではないかと考える。そこで、児童会活動に着目して実践を行うことにした。2022年度は本校の小学校創立50周年という記念の年であった。運営委員長（※児童会長と類似の役割）の「50周年を心に残る年にしたい」という思いから、学校をよりよくする活動を12の委員会の委員長や児童会の中心となる運営委員会の子どもたちと企画し、1年間活動をしてきた。

しかし、活動ごとにふり返りを行うと、「なかなか全員の協力を得られない」「もっとみんなの協力で達成したかった」という思いが残った。何かを始めようと声を掛ける子に対して、「やってみようかな」と応える子、双方向の関係づくりが大切であると改めて感じた。そこで、委員会に所属する以前から、子どもたちに参画する意識を育てられないかと考え、学級会にも着目した。4年生の学級委員と数人で議長団を形成し、学級会計画を立てた。意見箱を設置したり、委員会を話題にした学級会を設けたりした。じっくりと決める活動を繰り返し、決める力、応える態度を育てようと試みた。

#### 1 小さなプロジェクトリーダー ～児童会企画における実践～

2022年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行する年だった。感染症対策をしながらも、子どもの発想を主体としてとりくむことをねらいとして、運営委員会と各委員会の委員長による委員長会議を行った。各委員長が小さなプロジェクトリーダーという意識をもち、毎日行う当番活動としての常時活動に加えて、自分たちの創意工夫を生かし、50周年に向けたアイデア活動を行うこととした。運営委員会の中でも、やりたいことの希望に合わせて4～5人のグループを作り、プロジェクトごとにリーダーを立てた。担当教師はタブレットのパソコンのロイロノート<sup>\*1</sup>を用いて1つの共有ノート<sup>\*2</sup>を作成し、プロジェクトごとの枠を設けておいた。運営委員会の子どもたちは、互いのプロジェクトの進捗具合や児童会だより、放送の原稿といった情報を共有し合いながら、活動を形づくっていった。役割分担や他のチームから意見がほしい

際には、アンケートを共有ノート上に作成して回答を呼び掛けた。感染対策として1つの教室に全員で集まれないこともあったが、小さなプロジェクトチームとロイロノートの機能を生かすことで、いつでも、どこでも活動を続けることができた。また、各クラスの代表が参加して行う「代表委員会」でも、ロイロノートの機能を利用してきた。新児童会歌を決める際は、運営委員会の思いから議案書を作成し、各クラスで話し合った意見を提出箱<sup>\*3</sup>に送ってもらった。



代表委員会の話し合いの様子と完成した児童会の歌の歌詞

議長を中心に提出箱の意見を、思考ツールの付箋シート<sup>\*4</sup>上で分類してまとめた。当日は、出席者にタブレットパソコンを持参してもらい、その資料を出席者に送信したり、発表している内容の付箋シートをロイロノート書記が拡大表示したりした。議長の画面には、書記役が正の字を記録した画面や、発表回数調べ役がチェックした画面を共有した。緊張感の漂う中、一人一人がよく考え、情報を発信・共有しながら歌詞に入りたい言葉を決めていった。代表委員会後、さらに詳しく歌詞を決めていく際には、歌詞の一部や歌の題名を全校の子どもたちにロイロノートのアンケート機能で回答をしてもらった。自分の意見を再度求められることで、全校の子どもたちにも「自分が創った歌」と思ってもらえることがねらいだった。歌の題名は「丘の絆」に決まり、今、音楽教材の裏表紙に記載されていたり、昼の放送のオープニングテーマとして使われたりしている。

50周年ウィークは、「丘小全員でお祝いするパーティーをひらきたい」という思いから発案された。7月から考え始め、感染症の収束を秋に期待してやりたいことを出し合った。50年の歴史を、卒業アルバムや周年史を借りて調べ、「たくさんの卒業生がいるんだね」「初めての1年生の入学式の時には、体育館がなかったんだ」



集まったインタビュー

「今は何歳なんだろう、会って話を聞きたいね」など、わくわくとした気持ちが高まった。そこから、丘小学校のことをもっと知って、もっと好きになってもらおうと企画を考えた。開校1年目に1年生だった方や、学校運営協議会にインタビューをする機会をつくり、当時の様子や丘小の子どもたちへの願いを聞いた。その上で、メインプログラムを「歴史クイズ」「卒業生インタビュー」に決め、さらに50周年に向けてとりくんでいる各委員会の「プロジェクト紹介」も加えた。10月25日「はじまりの会」の集会は各教室で動画を視聴してもらいながら放送で行うこととなった。全校で集まりたいという思いはかなわなかったものの、みんなで50年の歩みを振り返る時間を味わうことができた。卒業生インタビューは参加型の企画として期間を設定し、子どもたちに「家の人にインタビューをしてみよう」と呼び掛けた。100人以上の子どもたちが、中学生や高校生、両親や祖父母、親戚と様々な方にインタビューをしてくれた。運営委員会の子どもたちは、たくさんのインタビュー用紙が集まったことに喜び、「たくさんの人に見てもらおう」と考え、意見を出し合いながら掲示場所を決めた。

インタビューをするために校長先生に許可をいただき、みんなでインタビューができたり、運営協議会や第一期生の方にインタビューしたりできました。みなさんの言葉を聞いて、ぼくは仲間を大切に、思い合って生活していきたいと思いました。はげましの言葉やアドバイスをありがとうございました。もっともっとよりよい丘小にしていきたいです。

卒業生や運営協議会の方々へインタビューをして、私たちの周りには、丘小を見守ってくれる人がたくさんいることが分かりました。メッセージに書いてくれたこと、地域の人たちの見守りや応援にこたえられるように、運営委員会として、スローガン達成に向けて頑張っていきます！  
ありがとうございました。

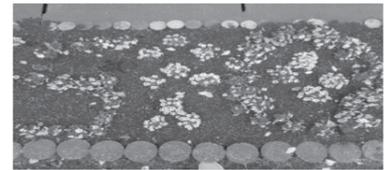
## 50周年後の児童会だより～インタビューチームのふり返り～

### 各委員会のアイデア活動

12の委員会が、委員長をリーダーとしての全校を巻き込み新しい様々なアイデア活動を行いました。図書委員会の「愛読ビンゴ」、掲示委員会の「落ち葉で一つの絵を作ろう」等、楽しい企画でした。



運営委員会：丘小祭。丘レンジャーと隠れ50を見つけよう。



園芸委員会：花で描いた「50」



自然科学委員会：バグズランド。丘小の生き物「50種」



給食委員会：50周年記念メニューサイコロステーキに決定

## 1年間の児童会のとりのくみ～50周年史の児童会ページ～

丘小学校の創立50周年イベントを行った時、みんなが自分たちのイベントに参加してくれていることのうれしさや達成感を一番感じました。コトのえいきょうもあって、全校イベントできることはありでよかったと思っていた時もあるが、自分たちの方で頑張ると、丘小を明るい楽しい学校にする！という気持ちで達成できたんじゃないかと思ったりする。

### 委員長・運営委員会の年度末アンケートより

ほしいとの思いから「委員会わくわくウィーク」を実行した。委員会の頑張りを掲示物や昼の放送でインタビュー形式の紹介をした。委員長や運営委員会の子どものふり返りアンケートでは、「委員長や運営委員になってよかった」とすべての子どもが回答し、「自分の思いを活動にできた」「丘小学校を変えられた」と成果を実感し、達成感を得ていた。一方で、「もっと下級生に企画に参加してほしい」という課題を挙げている声もあった。

小さなリーダーたちが、自分たちでできることを考えて、実践してきたからこそ、様々な活動を実現させることができた。委員長達の熱意は2月の委員会引き継ぎの時期まで続き、後輩に自分たちの思いや丘小の良いところを引き継いで

## 2 小さな合意形成 ～学級会における実践～

自ら学級の活動に参画する経験や、児童会活動に協力する視点で話し合い活動を設定することで、シティズンシップ教育の種になると考え、授業実践を試みた。

これまでの話し合い活動において、中学年では互いの思いを出し合いながら折り合いを付けて決めることに課題があると感じていた。決める力を付けていくためには、まずは「小さな合意形成」を積み重ねていくことが大切であると考えた。そこで、自分の考えをもち、一度グループ内で合意形成をする場面を設定する話し合いの形式をとることにした。グループ内で考えを出し合い、その理由をもとに比べ合い、全体で合意形成をした。本授業実践は、学校のために6年生が頑張ってくれていると気付いた子どもたちが、高学年へ協力したいという思いから議題

を設定した。計画委員が「あじさい愛読旬間」のために準備をしている図書委員会に気付き、調査・インタビューをした。図書委員会の願いや思いを叶えるために、自分たちに何ができるか考えようと、愛読旬間を盛り上げようという議案書を作成に至った。

クラス全員の意見を可視化できるよう、事前にロイロノートへ一人一人の考えを書いて提出してもらった。さらに、活動班に司会とロイロ記録係を設定し、話し合った。理由をもとに決める姿よりも、互いを同時にさし合い、多数決で意見を主役しようとする姿が多く見られた。決める力を付けるためには、よく練り合って決める経験が必要だとわかった。

話し合いの結果、ビブリオバトルをクラスで行うことに決まった。話し合いの後のビブリオバトルや愛読旬間のミッションへは、クラスの全員が声を掛け合い、期間内に達成することができた。自分たちで決めたことにより、関心意欲が高まり、主体的な行動と呼び掛けにつながったと考える。さらに、その後「もっと6年生を手伝いたい」と、別の委員会に興味をもち手伝ったり、児童会企画にすすんで参加したりする姿が見られるようになった。

あじさい愛読じゅんかんの話し合いをして、考えたこと

- もっと6年生に協力したいと思った
- 6年生に感謝の気持ちを伝えたい!
- 6年生を助けたい

学級会後のふり返り（ロイロノート）

### 3 実践のまとめ（成果と課題）

#### 成果

- 各委員会が一つ一つの活動を達成し、50周年に向けた大きな活動へと発展させられた。子どもたちは達成感を味わうことができ、次の活動を主体的に企画したり、他の活動に参画しようとするやる気につながったりした。
- 小さなプロジェクトリーダーを設けることで、リーダーは責任感をもち、子どもたちの自主的・主体的にとりくむ姿が多く見られるようになった。
- 話し合いの視点や決める手順がわかり、自分たちで話し合えるようになってきた。

#### 課題

- 子ども発信で計画を立てるためには、時間が掛かる。教職員と連携をしながら、準備をすすめること、子どもに負担を掛けすぎないように活動量の調整をすること、時間の確保をすることが大切であると実感した。
- 決める力や参画する意識は1度の学級会によって身に付くものではない。係活動や学年集会などを経験し、協力してもらい喜びや失敗をふり返ることで、相手の立場を想像したり、繰り返し経験や喜びを感じられる場を設定したりする必要がある。

#### ◇ 2年間の研究をふり返って

シティズンシップ教育について考えることで、自分自身の視野が広がりました。「市民」を育てるということは、単なる所属感や集団性とは違い、多様な考えをもつ集団の中で個としてどう自分を生かして、どうつながっていくか考える態度が求められていくのだと感じました。無関心さから、気付かないうちに誰かに任せきりになっている子は多いと思われます。気付き合い、協同し、自分の周りの社会を創る経験を小学校で積み重ねて、種は芽吹くと長い目で期待して、未来の市民を育てる種をまいていくことが大切だと感じました。

※<sup>1</sup> ロイロノートは株式会社 LoiLo の登録商標または商標です。

※<sup>2</sup> ※<sup>3</sup> ※<sup>4</sup> ロイロノートの機能です。

## 「しずおか学」から始まるドリームマップ※<sup>1</sup> ～地域と関わりながらキャリアを自分事としてとらえる実践～

本校の児童は、「働く」ということに対して否定的にとらえている傾向があります。その要因として「働く」ということに対する情報量の不足や、考えた経験値の少なさが考えられます。

そのような児童の実態から、様々な仕事（産業）に触れる機会や、そこで学んだことをもとにドリームマップを作成することが、「働く」ことへの意識を変化させるとともに、地域を大切にする心情を育むことに繋がるのではないかと考え、実践を行いました。

### ◇ 授業の具体

#### 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 青山 千秋（静岡市立足久保小学校）

#### 1 単元名 「しずおか学」から始まるドリームマップ

～地域と関わりながらキャリアを自分事としてとらえる実践～

#### 2 単元目標

しずおか学を通して、静岡市と関わりのある様々な仕事（産業）や、携わる人とふれあい、静岡市の魅力や働くことの意義について学びながら、自分の住む地域の産業（お茶）について再考し、良さを広げていく活動を通して、自分や地域の特徴をとらえ、未来について『自分事』として多角的に考えることができる。

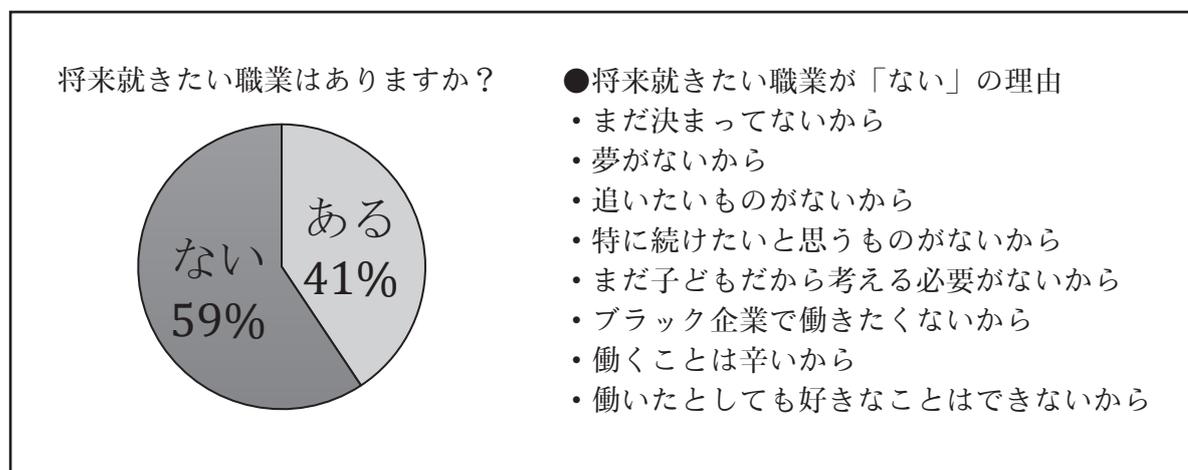
#### 3 単元計画（14時間）

##### （1）単元の流れ

「働く」ことに対し否定的にとらえている児童の実態から、「しずおか学」（地域や静岡市に愛着と誇りをもつ静岡市民を育てるとともに、広く社会や世界に目を向けて、その発展に寄与する人材の育成を目指す郷土を舞台にした学習）を通して、「エスパルスSDGs講座（静岡市ごみ減量推進課）」をきっかけに自分たちの住む地域のために何ができるかを考えたうえで、「宮大工の仕事」「田宮のミニ四駆づくり」「地域のお茶屋さん」など、静岡市特有の様々な産業（仕事）で働く人に触れる機会を設定した。関わりの中で「好き」を仕事にしていること、仕事をする中でやりがいを見つけていることに気付かせ、単元の個々のドリームマップを作成し、自分の職業観に落とし込んでいく。

(2) 地域・児童の実態

足久保地区は、聖一国師がお茶を持ち込んだ地と言われ、茶畑や工場が多く存在する。校舎の裏にも茶畑があり、児童にとってもお茶は親しみ深いものである。その地域性を生かして、総合的な学習の時間を通して、第3学年からお茶について系統的に学び、「お茶＝足久保が有名」と認識している。



児童へ実施した実態調査では、40%が将来就きたい職業が「ない」と回答した。また、「ない」と回答した理由からは、「将来就きたい職業がない」「考える必要がない」「働くことは辛い」といった、「働く」ことに関して否定的な記述が多く見られた。「なりたい職業像」が明確でない児童ほど、その傾向が強いことがわかる。

(3) 指導過程

	実施時期	教科	内容	
1	11/17 (木)	総合	エスパルス SDGs 講座 (静岡市ごみ減量推進課)	
			○学習過程	※留意点
			○本時の課題を把握する	
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     地域のために自分たちにできることを考えよう                 </div>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ拾いをする</li> <li>・防災訓練に参加する</li> <li>・お茶を育てたり、お茶つみに参加したりする</li> <li>・聖一国師について学ぶ</li> </ul>	※これまで総合的な学習の時間で学んだことや、地域の行事への参加の経験を想起させる。
			○エスパルスが企業として実施している SDGs のとりくみについて、説明を聞く。	※静岡市ごみ減量推進課の方の話を聞く。
			○学習問題を設定する。	
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     もし自分たちがエスパルスと協力して SDGs の活動をするとしたらどのような提案ができるだろうか。                 </div>	
				※地域の自慢である足久保茶を SDGs の活動とかわらせて考えさせる。

- ・マイボトルを持参で、足久保茶をサービス。
- ・選手にお茶つみに参加してもらい、選手とコラボしたお茶を販売し、足久保茶を広める。
- ・気温の上昇がお茶に影響することをまとめて、スタジアムで発表。

○今後の学習について見通しをもつ

これまで学んできた足久保地区や、足久保茶を未来につないでいくために、自分たちにできることをもっと考えていきたい。

※自分たちにできることは何かを考え、実行していくという単元の見通しをもち、次時につなげる。



2	11/24 (木)	総合	宮大工講座 
3	12/ 8 (木)	総合	ディズニーランドで働いていた方の話を聞く 
4	12/15 (木)	総合	タミヤ模型 ミニ四駆作り講座 
5	1/23 (月)	道徳	道徳「ようこそ菅島へ」の学習
6	1/24 (火)	総合	足久保ティーワークスの人の話を聞き、働くことのよさと地域で頑張っている人がいることを知る 
7	1/25 (水)	総合	自分のよさを見つめる学習

8	1月下旬	図工	図工「かがやく私」づくり開始
9	1/26(木)	総合	お茶と自分よさを関わらせる活動
10	1月下旬	国語	国語「わたしたちにできること」の学習開始
11	1/30(月)	総合	ドリームマップ作成開始(～2/3金)
12	2/2(木)	総合	静岡地場産品「挽物体験」 
13	2/6(月)	総合	ドリームマップドリームマップ作成完了
14	2/7(火)	総合	ドリームマップ発表練習
15	2/8(水)	総合	
16	2/10(金)	総合	ドリームマップ発表 参観会
17	2/13(月)	総合	振り返り

#### 4 授業の成果と課題

##### <成果>

- 様々な職業に触れる機会を設け、講師の方が仕事を楽しんでいると伝わったことにより、「働く」ということに対してマイナスイメージが減っていた。
- 自分の興味関心や、好きなものが職業に生きていくことに気づいた。

##### <課題>

- 自分の職業観を描けなかった児童にとっては、自分事の活動になっていたとは言えない。
- ドリームマップ作成により、職業観については自分事になったが、そこに「地域」の要素を十分に入れ込むことができなかつたと感じている。

#### ◇ 1年間の研究をふり返って

足久保茶ティーワークスの方の話を聞く中で、児童の中で「足久保はお茶が有名だ」ということを再確認したり、足久保地区のために働くことの良さを感じたりすることができました。特に、県外から足久保ティーワークスに就職した方が、やりたいと思ったことをやる良さについて話をしてくださったことで、自分のやりたい仕事に向かう良さを、児童が感じられたことがわかりました。

6年生段階で、自分が働くことを具体的にイメージすることが難しいと感じました。しかし、様々な職業人とのふれあいやドリームマップという手だてを講じることによって、「働く」ことに対するマイナス面だけでなく「やりがい」や「自分の好きが生かせる」という視点をもつことができたと考えます。

このような経験を位置づけることが自分事としてひきつけて考える基盤を養っていくのではないかと考えました。今回は地域の特色という部分が薄くなってしまいました。これからも児童にとってのルーツである足久保地区に対して、より自分事ととらえられるような手だてを、今後実践していきたいと思えます。

※<sup>1</sup> ドリームマップは一般社団法人ゆめのチカラの商標登録です。

写真出典：静岡市立足久保小学校 HP より

## 「なりたい自分」について考える～地域の方から学ぶ生き方～

若者の自己決定権を尊重し、積極的な社会参加を促すことを目的として成年年齢が20歳から18歳に引き下がり、児童・生徒が「大人」として社会に出ていく年齢が早くなりました。社会科の学習で政治、選挙について学び「大人」になるということをどのように捉えているのか、また子どもたちは自分の生き方や将来についてどのように考えているのかと疑問に思いました。

研究をすすめるに際して、社会（地域）との関わりをもつこと、自分の生き方について考えることは市民性を育むことにつながるのではないかと考えました。地域で働く方から生き方や働くことの意義を学ぶ活動を通して、自分の未来、地域の未来、社会の未来について『自分事』として多角的に考えたり、自分の考えを発信していく力を育成したいと考えました。

### ◇ 授業の具体

#### 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 松井 有理子（磐田市立豊田東小学校）

1 単元名 「なりたい自分」について考える～地域の方から学ぶ生き方～

2 単元目標

地域で働く方から生き方や働くことの意義を学ぶ活動を通して、自分の未来、地域の未来、社会の未来について『自分事』として多角的に考えることができる。

3 単元計画（14時間）

	○発問 ・主な活動	子どもの表れ
1	○「生きる」とはどういうことだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>息を吸ったり吐いたりすること</li> <li>考えること</li> <li>食べ物を食べたり飲んだりすること</li> <li>誰かと何かをすること</li> </ul>
	○生きるのに必要なことはなんだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>お金</li> <li>食べ物や飲み物</li> <li>家族や友だち</li> <li>家</li> <li>心</li> </ul>
	○大人と子どもの違いは何だろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>お酒が飲める / タバコを吸える</li> <li>選挙権がある</li> <li>働いてお金がもらえる</li> <li>子どもの場合はお小遣いをもらえる</li> </ul>
	○あなたはどのような大人になりたいか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかりした大人→しっかりとは？ →約束、時間を守る</li> <li>何でもできる人</li> </ul>
3	○「働く」とはどういうことだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>お金を稼ぐこと</li> <li>疲れる</li> <li>やりたくなくてもやらないといけない</li> </ul>

<p>○仕事をする・働くときに大切にしたい条件は何だろう。TOP 5を作り、そう考えた理由を友だちに伝えよう。(選ばなかった理由も)</p>	<p>●1位に多くの児童に選ばれたもの 「く…賃金」「う…自分の得意なこと」</p>
<p><b>【提示した働く条件】</b> あ…認知度（有名・知られている） い…保障（けがや病気の時の休みの保障や手当金・退職後の支給金など） う…自分の得意・好き・やりたいこと え…休み・勤務時間 お…通勤の便利さ か…やりがい き…勤務環境（職場の雰囲気・職場の施設） く…賃金（給料）</p>	<p><b>【理由】</b> ・お金をもらえないとやりたくない。 ・働いた分のお金は欲しいから。 ・得意なことや好きなことなら続きそうだし頑張れそう ●TOP 5に選ぶ人が少なかったものは 「い…保障」「お…通勤の便利さ」 <b>【理由】</b> ・大事だとは思いますが上位には入らない。</p>
<p>4 ○身近な大人に「働くこと」についてインタビューして聞いた内容を情報交換しよう。 ・両親・祖父母・習い事・教員等、関わりのある身近な大人にインタビュー</p>	<p>・嫌だなと感じながらも働いている。 ・嫌だと感じていても、「お客さんのために」「家族のために」など誰かのために働いていることが分かった。</p>
<p>5 ○「ようこそ先輩」でお話をしてくださる方々の職業について調べてみよう。 ①保育士 ②農家 ③ららぽーと磐田総合案内所 ④薬剤師 ⑤宝石造形 ⑥土木建設 ⑦美容師 ⑧エステティシャン ⑨介護福祉士 ⑩専門職大学准教授 ⑪信用金庫 ⑫自動車整備士 ⑬電子機器製造 ⑭メディア制作 ⑮ジュビロ磐田(運営) ⑯中学校教諭 ⑰電気工事 ⑱空き家管理・家事代行 ⑲ピアノ調律師</p>	
<p>6 ○「ようこそ先輩」で、先輩方にインタビューすることを考えよう。</p>	<p>・やりがいや大変なことを聞きたい。 ・なぜその職業に就こうと思ったか。 ・小学校の頃の将来の夢は何だったか。</p>
<p>7 第1回 「ようこそ先輩」</p>	<p>・「子どもや保護者に寄り添って」「お客さんのために」「喜んでもらえるように」仕事をしている。相手の立場に立ってどういう接し方が心地よいかを考えている。</p>
<p>8 第2回 「ようこそ先輩」</p>	<p>・なりたいと思っていた仕事でなくても、自分の興味関心があるものを極めたり、挑戦したりしていけば、それが仕事につながることもある。</p>
<p>9 第3回 「ようこそ先輩」</p>	<p>・夢は途中で変わってもいい。 ・作業が1人でも、仕事をしているとどこかで人と関わっている。コミュニケーションが大切とほとんどの方が話していた。</p>
<p>10 第4回 「ようこそ先輩」</p>	<p>・時間、締切を守ることや挨拶、礼儀が大切。</p>
<p>11 ○「ようこそ先輩」で勉強になったこと、印象に残ったことをまとめよう。 ○身近な人のインタビューや、ようこそ先輩で、どのような考えをもったのだろう。</p>	<p><b>【資料1】</b></p>

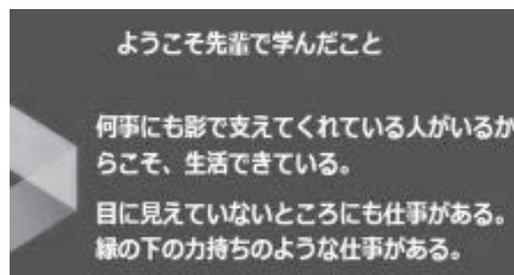
12	<p>○なりたい職業・興味がある職業・気になった職業について調べよう。</p> <p>*<sup>1</sup>13歳のハローワーク、*<sup>2</sup>未来の仕事を探せ！学研キッズネット</p> <p>*<sup>3</sup>「好き」から未来を描く お仕事図鑑 300（新星出版社）</p> <p>*<sup>4</sup>宇宙人とみつける仕事図鑑（文響社）</p> <p>*<sup>5</sup>決定版 日本の給料＆職業図鑑（宝島社）</p>	
13	<p>○インタビュー・講話・調べ学習から、「働くということ」「なりたい自分」について、わかったこと・考えたことをまとめよう。</p>	【資料2】
14	<p>○発表しよう。</p>	

児童の多くは、学習の初めは「お金を多く稼ぎたい」「自分の夢をかなえたい」など、自分のことが先行していた。身近な人へのインタビューや「ようこそ先輩」での講話を通して、「自分がしたことで、誰かが喜んでくれる＝自分の喜びになる」「自分の夢をかなえるには周囲の協力があってこそ」など、自分は多くの人に支えられているということに気付いた。また、「ようこそ先輩」では、働くことの大変さ、夢をかなえることの大変さや挫折など赤裸々にお話して下さった方もいたことで、「上手くいくことばかりではないこと」「諦めることもあること」や「小さくても夢は夢」「夢が変わっても新たな夢(目標)ができること」など生きていく上でヒントになる考え方を得ることができた。

### 【資料1】

#### ＜ようこそ先輩で学んだこと＞

「目標を持ち、色々なことに疑問を持つことが大事でめんどくさいこともあるけどできないことはない、仕事はいつかきっと誰かの役に立つ、チャレンジすることは悪いことではない必ずいつかいいことがかえってくる」ということを聞いて、この言葉が将来きっとやくにたつことだとおもいました。



### 【資料2】

#### 働くてどんなこと？

働くということは、自分と事ばかり考えずに相手の気持ちも考えて働くことが大切だと思いました。働いているときは、みんなのために働いていることが多いから大変だけどみんなのために働いていると思えば頑張れるしやりがいもあると思いました。

お店などは、お客様に「ありがとう」などの言葉も聞けることもあると思うからそういうところでも、やりがいもあるかなと思いました。

私たちの日常でも、できることはあると思うから、できることはやっていきたいです。

#### 結局、あなたにとって働くということは

働くということというのは、人と関わり協力してやるのが大切だと思いました。人と協力しないとできないこともあるから、人と協力するのは大切だと思いました。

人に言われる前に自分から行動することが大切だと思いました。

人に言われてやると、適当にやってしまったりすると思うからです。



#### ⑤今の自分ができること、これからやっていきたいこと

今の私ができることは、

- ・人との関わりを気をつける
- ・人の気持ちを考え行動する

ということだと思います。また、これからはもっと上のことに気をつけていきたいと思っています。そして人の役に立てるようになっていきたいと思っています。



#### 4今の自分ができること、今から自分がやっていきたいことは何？



- ・自分から積極的に委員会や係をしていきたい。

- ・他の人が大変そうだったり役に立てそうなことがあったらすぐに手伝う。



#### 4 授業の成果と課題

##### <成果>

- ・講話から職業・仕事についてだけでなく、その方の「生き方」について学ぶことができたため、「自分自身はどうありたいか」「そのためにはどうしたらよいか」について考えることができた。
- ・「ようこそ先輩」での講話のふり返りや友だちの発表を聞いていくときは、「自分の考え方と似ているところ」「自分の考えにはなかったこと」など視点をいくつか示したことで、聞いてわかったこと以外にも「自分はどうか考えているから、どう行動していくか」までをほとんどの児童が考えることができていた。
- ・小学校6年生時点での自分と他者との関わり方、自分と社会との関わり方について考えることができた。また、「相手の気持ちを考えた行動ができる人になりたい」とふり返りをした児童が多く、お互いに「ありがとう」という言葉かけをしたり、すすんで委員会の仕事やボランティア（お手伝い）にとりくんだりする児童が増えた。

##### <課題>

- ・自分の将来については「自分事」として考えることができたが、児童の考える「社会」というものに対して教員のねらいとずれがあったように思う。教員のほうが広く捉えすぎていた。児童が「社会」というものをどう捉えているのかを事前に把握することや、「10年後の社会はどうなっているか」を想像させ、友だちと共有していくことでより「未来」について考えられたのではないかと考える。
- ・講話で来てくださった方のほとんどが磐田市内のお勤めだったが、そこに触れることがなかったため「地域のこと」まで考えることができなかった。
- ・総合的な学習の時間の特性を生かし、国語科の話す・聞くに関する内容や、社会科の国際・公民分野、特別の教科「道徳」と関連付けられると、教員側も見通しをもった指導ができるうえ、児童の思考も多角的になるのではないかと考える。また、発信する力、シティズンシップのねらいをより達成できるのではないかと考える。

#### ◇ 1年間の研究をふり返って

仕事がAIに奪われていくとも言われている昨今、急速に変化する社会に対応するためには、自立・自律した個人が地域や社会と協力していくことが期待されます。職業講話のなかで「会社が地域に根ざした、地域に愛されるために人との繋がり、一期一会を大切にしている」という話がありました。目標に向かって、自分の考えをもち他者と協働していくことは授業や委員会活動など学校生活において様々な場面で通ずるものがあると感じました。児童が課題に直面したときに「誰かがなんとかしてくれる」のではなく、「自分で、あるいは仲間とよりよい方法を見出す」経験を多く積むことが、将来社会に出たときに生きる「市民性」につながるのではないかと思います。今後も学んだことを生かした授業、実践を行っていきたいと考えます。

#### ※参考図書及びサイト

- ※<sup>1</sup> 13歳のハローワーク公式サイト <https://www.13hw.com/home/index.html>
- ※<sup>2</sup> 未来の仕事を探せ！学研キッズネット <https://kids.gakken.co.jp/shinro/shigoto/>
- ※<sup>3</sup> 「好き」から未来を描く お仕事図鑑 300（新星出版社）
- ※<sup>4</sup> 宇宙人とみつける仕事図鑑（文響社）
- ※<sup>5</sup> 決定版 日本の給料&職業図鑑（宝島社）

## 様々な表現方法を使うことで、自分の思いを伝えられるように

社会と関わっていくときに大切になることは、自分の思いを表現できることだと思いました。そして、自他を大切にして生活していくようになってほしいと考えました。授業者が、道徳の授業で様々な表現方法を提示することで、生徒が自身の思いを確認したり、他者の意見から自分事に返して考えたりすることができると思い、実践にとりくみました。

### ◇ 授業の工夫

指導者 加藤 祐子（伊東市立南中学校）

学級の生徒の実態は、道徳のノートに「A自分自身を主人公の立場やその状況に置き換えて自分事として考えて意見を書く生徒」「B題材の内容に対して、自分の意見を書くことができる生徒」「C自分の意見を書くことができない生徒」の3段階が見られた。中でもBが多かったので、Aの生徒が増えていくように支援をしていきたいと考えた。

その支援の工夫として、以下の3点のいずれかを行うことにした。

#### ①教材や主発問の提示方法

映像や音楽を流すことで状況の理解を促す。

#### ②補助発問の吟味

各班の状況に応じて声かけを行うことで、話し合い活動の深まりを促す。話し合い活動を取り入れることで、自分の思いと他者の思いの共通点や相違点を感じとって自分の思いをもったり、深めたりできるようになってほしいと考えた。

#### ③表現方法の利用

表現方法を工夫することで、生徒が発問を自分事として捉え、議論して考える道徳をめざす。

- ・道徳ノート（ココログ・ノート<sup>\*1</sup>、ポートフォリオ<sup>\*2</sup>）
- ・心情円（割合の表示）
- ・JamBoard<sup>\*3</sup>（付箋機能）
- ・ロールプレイング 等々・・・

### 1 道徳の授業を通して

主題名 いのちを考える

#### （1）「奇跡の一週間」<sup>\*4</sup>

《ねらい》 がんを患った北村さんの生き方を通して、命の尊さを理解し、  
自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

《授業で工夫したこと》

①教材の提示：最初に北村さんの作品の絵本を読み、作者の印象を考える。

③心情円の利用：「私」のように北村さんに真剣に注文をつけるかどうかを考え、割合とその理由を記入する。

《生徒の活動内容と振り返り》

生徒の振り返り

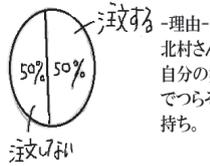
- ・命は限られているから、誰かの役に立ったり、影響を与えられたりするように、楽しみながら頑張れば悔いは残らないだろう。

- ・嫌なことを適当にやってきたけれど、嫌なことでも好きなことも真剣にとりくんでいきたい。

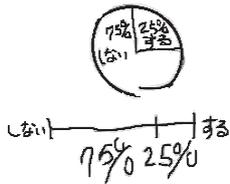
**活動内容**

**道徳ノートへ記入**

③心情円：生徒の気持ちを割合で示し、その理由を書かせる。

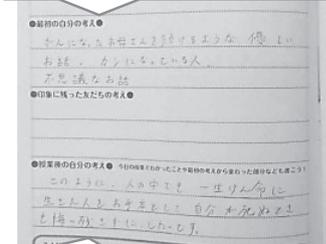


北村さんは楽しそうに絵を描いて亡くなる直前まで自分の好きなことをしてもらいたくて注文したいけど、癌でつらそうだから無理してほしいから半々という気持ち。

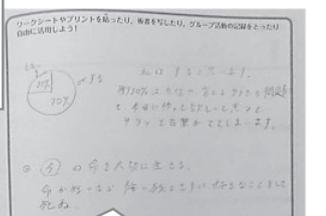


無理はさせないようにしたいけど、本人ががんばりたいと思ってるなら注文すると思います。

①北村さんの絵本を読み、作者へのイメージを記入する。



毎回、授業をふり返って考えたことや思ったことを記入する。



③心情円：北村さんに真剣に注文をつけるかどうかを考え、割合と理由を書く。

(2)「妹に」※4

《ねらい》妹の誕生に対する「私」や「私の家族」の思いを通して、生命の繋がりがや関わり合いを考え、かけがえのない自他の生命を大切にしていこうとする心情を育てる。

《授業で工夫したこと》

②板書の工夫：「命」とは何かをはっきりさせるため、班ごとの命に対するイメージマップにして可視化する。

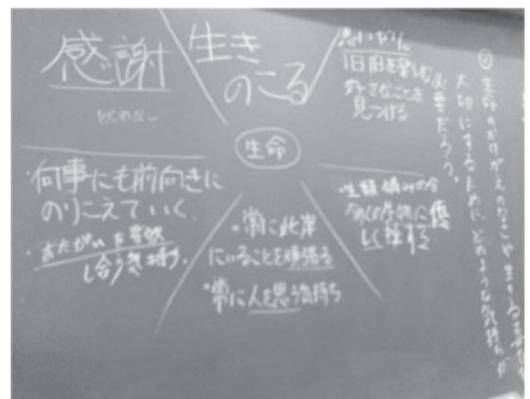
《生徒の活動内容とふり返り》

**生徒のふり返り**

- ・誕生は誰もが嬉しく愛がたくさんだと思う。時が経ってもその心を忘れなければ、優しさや愛にあふれた世界になると思った。
- ・姉妹とケンカなどした日々があって今がある。ぶつかり合ったり泣いたり笑ったりできるのは、命があるから。産んでくれたお母さんに感謝したい！
- ・優しくされた分、周りの人に優しく接したい。思いやる気持ちを忘れずに生きたい。

**活動内容**

②板書の工夫：班の意見をまとめて書く。



(3)「三つのいのちについて考える」※4

《ねらい》今まで2回の授業を含めて、命の「有限性」「連続性」「偶然性」などについて考え、生命の尊さを深く理解し、かけがえのない命を大切にしていこうとする態度を育てる。

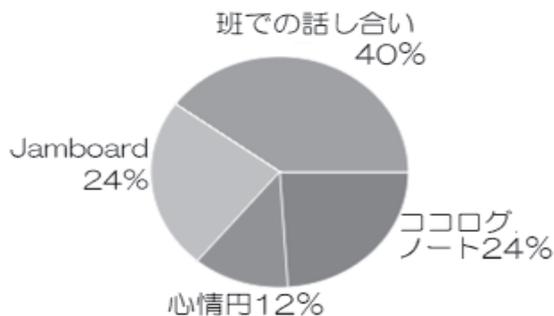
《授業で工夫したこと》

- ①時間設定：3つの命に対する自分の意見を書く時間を確保した。
- ③形式を設定して記述：「○○さんの△△という意見を聞いて、□□と気づいた。」という形式にすることで、人の意見と自分の思いを繋がるようにする。



- ・毎回道徳ノートにふり返りを書くことで、今までの生活をふり返り、自分が感じていることや大切に思うことを表現できる生徒が増えた。
- ・教材研究をして、主発問に繋がるような初発問や指示をすることで、生徒は自分の意見をもったり、班員の意見をしっかりとメモしたりできるようになった。

道徳の授業で利用している表現方法・活動のうち、どの方法が1番使いやすいですか。



#### 【課題と対策】

- ・題材が身近な出来事でない、未経験のこともあるため、自分事にならなかった。⇒自分事になるような発問や補助発問を考える必要がある。
- ・班編成によって意見交換にならなかったり、深まらなかったりする。⇒各班の表れを予想して補助発問を用意しておく必要がある。
- ・新しい表現方法の使い方を間違えたり、ふざけたことを記入したりする生徒がいた。⇒新しい表現方法をよりよく利用するルールを提示したり、注意してすぐに守れる学級の雰囲気作りを意識したりすることが大切になる。

#### ◇ 2年間の研究をふり返って

私は、しばらくシティズンシップ教育とは何かを理解ができないまま、委員会に参加していました。生徒が将来社会に出たときに、自身の考えや思いをもったり、伝えたりする力は必要になるだろうと考えました。そのため、生徒が意見をもてたり話し合ったりしやすく、直面する生活の中に具体的な場面が重なる道徳を通して、実践を重ねてきました。

実際に様々な表現方法を試していくと、生徒は新しい表現方法を楽しそうに使う自分の思いを表現していました。また、班での話し合い活動を繰り返したり取り入れることで、意見交換が盛んに行われるようになりました。さらに、なかなか意見をもてない生徒も、班員の意見を参考に自分の意見をもつようになり、学級全体で発表する生徒が増えました。しかし、4月に新しい学級になると、「自分の思いをもつ」から再始動することになりました。その経験から、意思表示できた成功体験や相手が聞いてくれる安心感を味わえる学級・班を構築していく大切さを感じました。さらに、教材研究や生徒理解を大切にすると同時に、生徒が自分事として考えられる発問や表現方法を工夫していくことが重要だと感じています。また、委員会に参加していく度に、他の先生方がしっかり生徒を見ていることや学級経営を大切にしていることがよくわかりました。委員のさまざまな実践を聞き、自校で行っている活動がシティズンシップ教育につながることに気付きました。これからも日々の教育活動を大切に行い、生徒と向き合っていきたいです。

※<sup>1</sup> 浜島書店 道徳ノート

※<sup>2</sup> 新学社 道徳ノート

※<sup>3</sup> google の付箋機能のアプリ

※<sup>4</sup> 出典：新しい道徳（東京書籍）

## 身近な地域の環境問題から考えるシティズンシップ ～沼津コンビナート計画問題から考える環境権～

子どもたちが将来、地域社会について考え、政治に参加していくことの大切さについて、シティズンシップ教育を通じて伝えていきたいと考えました。そのために、地域住民一人一人の思いが地域の未来を変えていく原動力となる一例として、沼津・三島地区で起こった環境を巡る住民運動の歴史を学び、かつての市民の思いに触れることで自分たちの住んでいる地域の現在と未来に目を向けることが『シティズンシップ教育研究』の理念に基づいていると考え、実践に至りました。

そこで『新しい人権』の一つである『環境権』に注目し、高度経済成長期の開発の一つに生徒たちが暮らす「沼津市」を含む東部地域に計画された「コンビナート計画」があったことを紹介しました。コンビナート計画に対する環境破壊を危惧した市民による環境調査や市民運動が国を挙げた開発計画を中止にさせた経緯とそこに携わった人々の思いに触れていく中で、シティズンシップの大切さについて考察したいと考え、実践をすすめました。

### ◇授業の具体

指導者 今泉 伸隆（沼津市立第一中学校）

#### 1 題材名 『これからの人権保障（環境権）』～沼津コンビナート計画～

#### 2 題材の目標

- 社会の発展に伴い、新たに認識されるようになった人権について、生まれた背景と内容について理解する。【知識・技能】
- 高度経済成長下における『沼津コンビナート計画』の内容を知り、地域の環境がどのようにして保護されたのかを知り、環境権の必要性について主体的に話し合いができる。  
【学びに向かう姿勢】
- 環境を守るために自分たちには何ができるかを考え、地域で起こった問題を自分事として捉えることができる。【思考・判断】

#### 3 本時の指導

##### (1) 本時のねらい

『公害』や『環境問題』について学習してきた生徒たちが、自分たちが住んでいる地域に大規模なコンビナートが建設される計画があり、環境を憂慮した住民たちの行動によって中止された事実を知る中で、『環境権』の必要性について考え、自ら環境を保護していく意識をもつ。

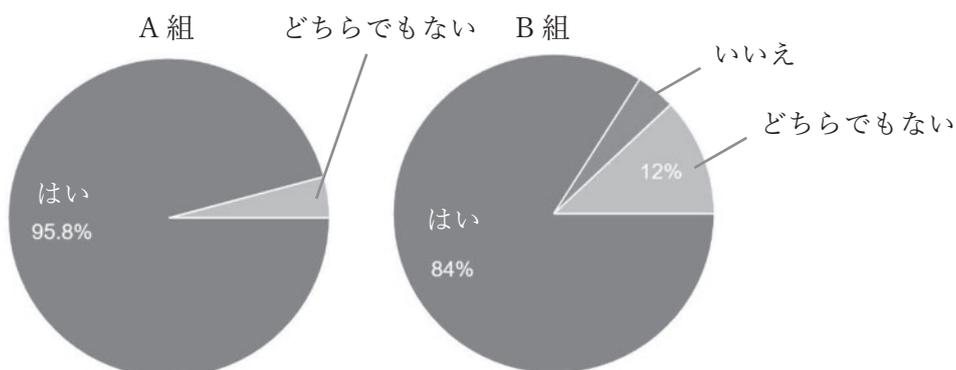
##### (2) シティズンシップ教育の視点

- 現代社会の特色が自分たちの生活にどのような影響を及ぼしているかを多面的に考察する。
- 地域社会に目を向け、地域の一員として社会に貢献する意識を育む。



## 5 成果と課題（アンケート集計を基に考察）

社会の授業を通して、世の中の出来事や授業課題に対して深く考え、自分なりの意見をもてるようになった。



### 理由（一部抜粋）

家に帰ってから、公民で勉強している単元は家族に話して、世の中の出来事とからめて考えるようにした。（例えば、宗教団体に関するのニュースでは、授業で習った「信教の自由」と「公共の福祉」を、親と意見交換をした。）また中1や中2のころはあまりニュースとかに対して意見をもたなかったけど、最近はニュースを見て自分の意見が頭に浮かぶようになったという変化を感じる。

- ・ニュースで話題になっていることをコメンテーターの方の意見だけでなく自分なりの考えでそのニュースに考えられるようになった。
- ・現代社会の問題について詳しく知るようになった。
- ・ニュースを見たりしたときに社会でやったことと関連させて考えることができるようになった。
- ・普段からニュースを自分の意見をもちながら見ることができた。
- ・公民を習い始めてから、最近ニュースを見るのに面白さを感じるようになった。
- ・時々塾の先生や、家族など、身近な人の意見を聞いて、自分の意見を世の中の情報からもち、自分の意見を言うということに力をいれている。特に塾では高校生の人も、話すことが多く、世の中を決めてく若い世代の一人として考えを深めておかななくてはと思った。
- ・現代起っている問題と政治を絡みつけながら考えられた。
- ・ウクライナ情勢や円安など様々なニュースが今年は飛び交っておりそれをきっかけに、その他のニュースについて興味をもってみることもできた。また、韓国の群集事故などを見て、こうならないためにはどうすることが重要かを考えることができた。
- ・ニュースを意識して生活することができた。
- ・これからの日本のことや、自分たちがこれからやっていくことなどについて考えることができたから。
- ・ニュースを見ているときに「これってこうだからこうなったのかな？」と自分で考え、親に話すこともある。
- ・公民を学んだことで、選挙や政治などの興味をもつことができ、自分なりの意見をもつことができるようになった。

### 【アンケート集計を受けての考察】

- ・生徒たちが地域の歴史を知ることで、公民の学習をより身近なものだと感じるきっかけになった。
- ・生徒たちの感想から「自分たちで～」「興味をもつこと（考えること）が大切」など当事者意識を感じる言葉が多く使われるようになっている。
- ・生徒同士で熱海の土砂災害やリニア問題などについて話をする姿が見られるようになった。

## 6 沼津市社会科勉強会でのとりくみ

同市の社会科教員が有志で開催している勉強会でシティズンシップ教育をテーマに話し合いをする機会を設けた。その中で、以下のような意見が出された。

- ・地域にこのような教材があることを知らなかった。生徒に地域についての関心につながる良い教材になるので、市内社会科で共通の教材として扱ってみてもよい。
- ・実際に授業でとり扱ってみた。(今年の研究レポートを利用して)
- ・授業構成として、1～2時間でとり扱うのは難しいのではないか。(もっと深めても良いのでは?) また、社会科の枠にとらわれず、様々な教科につなげて面白い。  
(例) コンビナート計画が地域に与える影響についての考察を深め、賛成・反対に分かれて討論を行う。生徒たちに郷土を守ってくれた当時の市民に手紙を書かせる。など
- ・社会科の枠にとらわれず、総合の地域学習や道徳の“郷土を愛する”という観点で扱っても面白い題材である。
- ・実際に反対運動に参加した人から当時の様子を話してもらう機会を作っても良い。
- ・地域教材はデリケートな(政治的)問題も孕むが、避けては主権者(=自分事として考え、判断行動する)にはなれない。高校の「公共」を意識し連携させる授業づくりの視点も必要。
- ・学校行事などについても生徒に色々と考えさせる工夫ができるのではないか。例えば、京都でオーバーツーリズムを体感した生徒に静岡県で検討されているオーバーツーリズムの対策について考察させるなど。



## 7 実践の成果と課題

### 〈成果〉

- ・今までの学習成果を踏まえながら、様々な単元でシティズンシップを育む教育が実践できるという実感がもてた。
- ・市内の社会科教員にも意見を聞く中で、社会にとどまらず、様々な教科でシティズンシップ教育を行うことができる見通しがもてた。
- ・今回の学習で生徒たちが地域や時事問題などに主体的に関心をもつ様子が見受けられた。

### 〈課題〉

- ・3年生での実践であったため、進路の関係上で生徒に議論をさせる時間が充分に取ることができなかった。
- ・地域を題材にしたテーマは親近感が沸き議論にも熱が入りやすいが、同時に身近に当事者がいる可能性もあるので配慮を要しなければならないと実感した。

### ◇ 2年間の研究をふり返って

「シティズンシップ教育」という新たな視点で授業を見直す2年間は、自分自身の授業改善にもつながる有意義な時間となりました。また、実践成果をアンケート形式でまとめる中で生徒が授業の知識を活用しながら議論を重ね、自分自身の意見をもつ様子が見られ、社会の授業を通じて成長している様子がわかり、大きな自信となりました。また、「シティズンシップ教育」をテーマとして市内の教員と意見交換をすることで様々な学びを得ることができました。今後も様々な分野で「シティズンシップ教育」を実践し、多くの人に広めていきたいと思えます。

## 稲取のためにできること

私はシティズンシップ教育について考えたときに、目の前にいる生徒たちは一体どれくらい自分たちの住んでいる地域について知っているのだろうと疑問に思いました。自分の住んでいる地域について知り、自分たちにできることを考え、実践していく力の育成がシティズンシップ教育であると考えています。学校生活の中で、いかに生徒が自分の町について深く考えることができるのかを軸とし、英語と特別活動を中心に実践を積み重ねてきました。

### ◇ 実践の概要

指導者 山本 百合奈 (東伊豆町立稲取中学校)

1年目は、学校生活の中で地域について考える力の育成を図ることに焦点を当てて、英語の授業内で実践を行った。2年目は、生徒が地域のために自分たちができることを見つけ、行動につなげることを目的とし、生徒会活動を中心に実践を行った。

#### ≪1年目≫ 英語の授業における実践

**実践のねらい**：生徒が自分の地域について考える時間を確保する。

#### ① Small Talk about Inatori ～稲取について英語で話をしてみよう～

**生徒のふり返しシート**

1、Inatori についての Small Talk において、自由に感想を書いてみましょう。

普通に生活していても海外の人が観光に来た時聞かれると思うので説明できるようにになりたい。場所についてかむすかしかかった。

#### ② Writing about Inatori

～ What do you want in inatori? 稲取にほしいものは?～

**生徒が書いた英文**

I want population in Inatori.

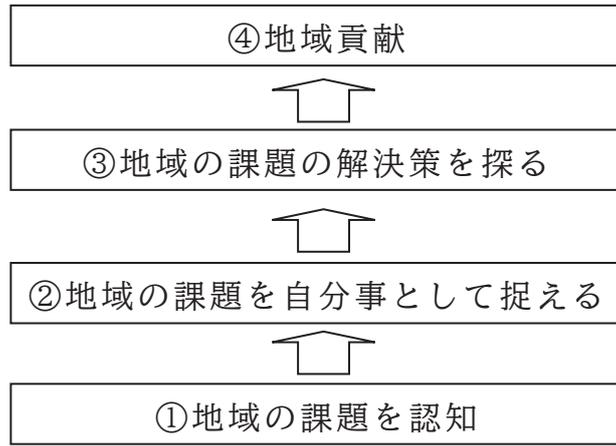
I want big library in Inatori.

⇒1文目は、人口が欲しいという意味で、現実的な視点の英文になっている。

#### ≪2年目≫ 特別活動における実践

**実践のねらい**：生徒が地域の一員としてできることを探し、実践する。

【実践構想】



1 まずは生徒会執行部で地域の課題（現状）を挙げ、全校に発信。（①）

《《稲取の現状》》

- ・稲取の伝統が薄れている・海にゴミが多い・観光客が減っている
- ・小学校と中学校の繋がりが少ない

2 生徒総会の全校討論のテーマを「稲取のために私たちができること」に設定。（②）

3 討論に不慣れな生徒が多いため、執行部で『話し合いの掟』を掲げる。

⇒話し手、聞き手のそれぞれの立場で意識すべき掟を設定、認知。

4 全校生徒で中学生なりにできることを探る。（③）

5 生徒総会で出た意見をもとに、執行部で検討、計画、実践。（④）

話し合いの掟

◆話し手は…

1. 丁寧な言葉遣いを意識しよう！
2. みんなに伝わるようにはっきりと話そう！
3. 相手の意見を受け入れながら、自分の意見を伝えよう！

◆聞き手は…

1. 相槌を打ちながら、話を聞こう！
2. 相手の顔を見ながら話を聞こう！
3. 自分の意見を考えながら聞こう！

令和5年度前期生徒会執行部

生徒総会で出た意見

- ・全校で稲取の伝統や文化に触れる。  
⇒つるし飾り作成を復活させたい。  
地域の方とつながりたい。
- ・稲取中学校のSNSのアカウントを作成する。  
⇒中学校でのとりくみなどを幅広く知らせたい。
- ・町内で朝の挨拶運動を行う。  
⇒自分たちの力で稲取をもっと明るくしたい。
- ・学年で稲取に関するポスターを作成する。  
⇒駅に掲示し、観光客に稲取の名所をアピールする。

執行部では、稲取地区の課題として、地域とのつながりの減少や伝統・文化が薄れていることを挙げていた。そのため、生徒総会で出た意見をもとに、2つ目の全校生徒でつるし飾りを作成することにした。若い世代が自分たちの町の伝統や文化を大切に思う気持ちを育み、将来自分たちが継承していくための力の育成を図った。

## つるし飾りアンケート

※ 稲取の伝統が薄れてきていると感じたため、つるし飾りを作成する前に、全校生徒を対象にアンケートを実施した。

### ①あなたの家にはつるし飾りがありますか。

はい（約 43.5%）・いいえ（約 56.5%）

### ②“ある”と答えた人に聞きます。それは、どんなのですか。また誰が作りましたか。

- ・知り合いのおばあさんが作った。 ・祖母と母が作った。
- ・祖母がお店で購入した。 ・曾祖母と祖母が作った。
- ・赤ちゃんや桃などいろいろな飾りがあった。
- ・鯉のぼり、フクロウ、ネズミ、たいこ、鶴、俵、草履、鞠などがあった。
- ・ひな祭りのときやこどもの日に飾られるもの。
- ・テレビの企画で、祖母と母、姉が自分のために作ってくれたもの。

### ③家族の人とつるし飾りについて話をしたことがありますか。

はい（約 18.5%）・いいえ（約 81.5%）

### ④“ある”と答えた人に聞きます。誰とどんな話をしましたか。

- ・家族とつるし飾りの種類について話した。
- ・それぞれ思いが込められていること。
- ・どうやって作っているのか。 ・つるし飾りは誰が作っているのか。
- ・姉と自分が生まれたときに、母親が作ったという話。
- ・祖母が昔は、つるし飾りを売る仕事をしていたという話。

### ⑤その他、つるし飾りについて知っていることがあれば教えてください。

- ・稲取発祥であること。 ・健康のために作られている。
- ・母や祖母たちが結婚式などで着た着物で作られている。

### ⑥あなたがつるし飾りについて知りたいことがあれば記入してください。

- ・どうやって作るのか。 ・なぜ、始めようと思ったのか。
- ・詳しい種類について。
- ・それぞれの込められた意味について。 ・何の布が使われているのか。

### ～アンケートから分かったこと～

- ・つるし飾りは生徒の身近なものであること。
- ・家につるし飾りがある家庭は約半数だが、つるし飾りについての話をする家庭が少ないことから、生徒のつるし飾りへの興味は薄れている可能性があること。
- ・祖母が作っている家庭が多いことから、若い世代が作る機会が減ってきていること。





作業は楽しかったです。  
おばあちゃんをつるし  
飾りの話をしました。



楽しかったです。家で  
も少しですが、つるし  
飾りの話をしました。



難しいこともあったけど、  
みんなで作ることができ  
てよかったです。

### 3 実践のまとめ

#### 〈成果〉

- 地域で生まれた伝統や文化を学校の中にとりいれることができた。
- 作成したつるし飾りを、嬉しそうに通学バッグに付ける生徒が多く見られた。
- 真剣に作業にとりくみ、自分たちの町の文化を大切にしようとする姿勢が見られた。
- 地域とのつながりができ、校外で生徒と地域の方が言葉を交わすきっかけとなった。
- 自分が作ったつるし飾りを家族にプレゼントし、家庭内でつるし飾りについて話す時間が増えた生徒がいる。

#### 〈課題〉

- ▲2年間の中で、どこに重きをおいて実践していくかの判断が遅くなってしまった。
- ▲生徒の「～したい」という思いにどこまで寄り添えるかが非常に難しかった。
- ▲今年度実施したことを、稲取中学校で今後どのようにつなげていくか、検討する必要がある。

#### ◇ 2年間の研究をふり返って

「シティズンシップ教育」という言葉を知ってから、学校教育に対する考え方が大きく変化しました。生徒が将来、この町を担っていく大切な存在であることを再認識し、その大切な存在をどのように育成し、社会で活躍できるようにするか、自分の中で日々いろいろなことを考えた2年間でした。私は、英語と特別活動という2本の柱で、私なりのシティズンシップ教育にとりくんできました。特に、つるし飾りの作成については、生徒が地域について考える中で、地域の一員としてできることを考え、企画し、実践につなげることができたことは大きな成果だと思っています。生徒の中で、自分たちの地域を大切に思う気持ちや地域の一員であるという気持ちが芽生えていることを期待しています。私は2年間を通して、シティズンシップ教育が、今後の学校教育の中で継続されていくべきものだと考えるようになりました。今後も、小さな実践を続けていき生徒の市民性を育むためのとりくみをしていきたいと思っています。

## 自分たちのまちをよりよくする政策を考える ／キャリアプランニング能力の育成をめざして

6年生社会科では公民的分野の学習として、国、都道府県、市町村における基礎的な政治の学習を行う。今年度は湖西市役所（秘書広報課）より「1日市長体験」募集があった。各校1人の参加という人数制限はあったが、市政について具体的に考えるよい機会になると考え、単元を工夫して最終時に組み込むこととした。また、本校6年生の総合的な学習の時間では、地域の特色や産業を知り、自身の生き方につなげる活動にとりくんでいる。社会科で身に付けた力をこの総合的な学習の時間の活動に生かせると考えた。その際、『シティズンシップ教育研究委員会研究所所報 No.164』『シティズンシップ教育研究委員会の研究所レポート VOL.60』の社会科や総合的な学習の時間の実践事例をもとに、より自分事として湖西市や地域を見直す時間が設定できると考え、本実践を行った。

◇ 実践の概要

指導者 鈴木伊織／飯田千広（湖西市立東小学校）

(1) 単元名等

社会科：もしもわたしが市長になったら（「わたしたちの生活と政治」）

総合：地域・わたし再発見！見つけようわたしの生き方

(2) 目標・ねらい等

社会科：自分が住む地域のよいところや課題に着目した政策を考えたり、話し合ったりすることでよりよいまちづくりについて考えようとする。

総合：自分たちの住む地域に関心をもち、みんなのために働いている人やそれに関連した仕事について調べ、生活や今後の生き方を豊かにしていこうとする。

(3) 指導の具体

社会科「もしもわたしが市長になったら」の実践について

段階	○学習活動・児童の反応	・教師の支援◎評価☆他教科との関わり
つかむ	○わたしたちの住む市のよいところと課題について意見を出そう。 ・浜名湖などがあって自然が豊かだよ。 ・大きな工場があるよ。 ・人口が減っているって新聞で見たよ。 ○課題について確かめる。	・2年生生活科や3年生社会科・総合等、過去の学習を想起させることで地域のよさについて考えられるよう支援する。 ・湖西市のよいところと課題を板書に記すことで、政策について考えることの支援とする。
もしもわたしが市長だったらどんな政策を立てるか考えよう。		
深める	○市長としてどんな政策を立てるか考えよう。 ・人口を増やすためにはどんなことをしたらよいか。	・ワークシートを配り、自分の考えをメモすることで考えられるようにする。 ☆総合的な学習の時間の活動と関連付けて考えられるよう声を掛ける。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を生かした観光を宣伝することで活気づけられたらいいな。</li> <li>他市はどんなことをしているのかな。</li> </ul> <p>○考えや調べたことを交流してまとめていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんな少しずつ内容や理由は違ったけど、よい面の活用は同じだった。</li> <li>違う視点や意見が参考になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湖西市のホームページ等、サイトをまとめて Google クラスルーム<sup>*1</sup> に入れておくことで調べ学習の支援とする。</li> <li>自分とは違った視点に気付けるよう、声を掛けるとともに共通点にも着目して自分たちの住む市のよさや課題についての考えを深める。</li> </ul>
振り返る	<p>○「もしも私が市長だったら」どんな政策を立てるか、今日の学習をもとにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少の課題を解決する案を考えました。</li> <li>環境問題のことも考えて、観光をもっと盛り上げる方法を考えました。</li> </ul> <p>※ワークシート参照</p>	<p>◎自分たちの住む地域に関心をもち、生活や今後の生き方を豊かにしていこうとする意欲をもつことができる。(ワークシート・発言)</p> <p>☆総合的な学習の時間の活動と関連付けて引き続き考えられるよう声を掛ける。</p>

総合「地域・わたし再発見！ 見つけようわたしの生き方」の実践について

	活動内容	関連教科・領域	地域との関わり
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題について考えよう。</li> <li>○湖西市の産業にふれ、職業について調べよう。</li> <li>○各自の課題を追究しよう。</li> </ul>	社会「わたしたちの生活と政治」 「もしもわたしが市長になったら」 「日本の歴史」 国語「情報と情報をつなげて伝えるとき」	租税教室 企業見学（2 企業の見学） マイスター講座
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自の課題を追究しよう。</li> </ul>	社会「日本の歴史」 国語「私たちにできること」	カヤック体験 火起こし体験
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○湖西を支えてきた人たち、今を生きる人たちの願いや湖西市の産業について調べよう。</li> </ul>	社会「日本の歴史」 国語「いちばん大事なのは」「利用案内を読もう」	湖西市の産業（出前講座） 農家見学
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べた仕事のやりがいや魅力をさらに調べよう。</li> <li>○興味をもった仕事について、インタビューしたり調べたりしよう。</li> </ul>	社会「日本の歴史」 国語「みんなで楽しく過ごすために」 修学旅行準備	湖西中見学 地域の働く人とのリモート講座
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が将来就きたい仕事のやりがいや魅力について考え、発表しよう。</li> </ul>	国語「調べた情報の使い方」 修学旅行（東京方面）	魚料理体験（寿クラブ）
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ミニ発表会を開こう。</li> </ul>	社会「日本の歴史」 国語「大切にしたい言葉」	他校との交流（リモート交流）
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わたしの夢をまとめよう。</li> <li>○わたしの夢を発表しよう。</li> </ul>	社会「日本の歴史」「世界の中の日本」 国語「大切な人と深くつながるために」	学習発表会

\*1 Google クラスルームは、Google のアプリです。

### 3 実践後の反省と評価

#### 【評価できる点】

- ・この実践をもとに代表児童1名が「1日市長体験」に参加するなど実体験につながった。
- ・他の学習と連携して、「自分事として考える」今後につながる活動となった。

#### 【反省・課題】

- ・今回は代表児童1人のみといった、全員が意見を外部に発信できるような活動にはならなかった。学校内にとどめず、さらに市と連携してすすめられる活動になるとよい。
- ・地域の人の話を聞く時期がうまく調整できていなかったもので、それが合うようにしたい。

### 4 資料・参考文献等

#### 【総合のオリエンテーションで使用したスライドの一部】

**将来の夢や興味ある職業について考えよう**

名前 \_\_\_\_\_

生き方発見Ⅰ～働くことの魅力ややりがい～

- ①魅力発見（よさ・やりがい）
- ②その職業につくために必要な事発見 (Dream MapⅠ)

**未来の自分へつなげよう**

生き方発見Ⅱ

- ①自分のよさとなりたい自分
- ②将来の夢探し
- ③夢に向かって（実現させるためにどうすればいいのか、何が必要か） (Dream MapⅡ)
- ④中学生生活を考える→今できること・準備

**様々な職業を知ろう**

職業発見

- ①働くことの意味を考える（家族へのインタビュー）
- ②職業を調べる
- ③見学・体験・インタビュー (仕事Map)

## どんな職業があるのだろうか・・・ 名前 \_\_\_\_\_

日本には、なんと1万7000種以上の職業がある！

動物に関わる	食に関わる	医療に関わる	ITに関わる
アニマルセラピスト トリマー ブリーダー ペットシッター 獣医師 飼育員 動物調教師 盲導犬訓練士 動物看護師 動物介在療法スタッフ ドルフィントレーナー 乗馬インストラクター 野生動物調査員	フードコーディネーター 料理研究家 フードアナリスト 料理人 パティシエ ショコラティエ 管理栄養士 食品衛生監視員 杜氏 醸造家 ソムリエ 茶道家 調理師	医師 看護師 助産師 法医学医 放射線技師 臨床検査技師 臨床心理士 音楽療法士 救急救命士 薬剤師 ソーシャルワーカー 児童相談員 手話通訳士	ITコーディネーター OAインストラクター エンジニア システムコンサルタント システムアナリスト プログラマー
			科学に関わる
			機械設計士 電気工事士 無線通信士 通信技術者 危険物取扱者 液化石油ガス整備士 電気主任技術者 金型工 ロボット設計技術者

まだまだあるよ。調べてみよう！

補足：湖西市内A小学校6年生総合的な学習の時間オリエンテーション資料を基に作成

【ワークシート（もしもわたしが市長になったら）】

今あるよさの活用や課題解決を考慮した政策を交流して、シートにまとめていきました。

5. 自分が市長だったら、こんなまちづくりを提案します！

交通事故を少なくし、親の安全をよやすというのを提案する。  
 交通事故ほうしのホスターをほたり、よびかけをほい。  
 自然豊かな「たもののおいし」という湖西のみよくを  
 全国各地に知らせたり、いろいろのイベントなどを開いた  
 りたい。また、たもののおいし、みよくを知ってしらうために  
 みよくに伝えている。←  
 また、しかりしたルールを決めて、よびかけをほい。  
 理由は最近交通事故やじゅうたかふえていたり、  
 人口が減ってきたりしているから。  
 湖西のとくさんぶつておいしいうりを伝えているたりしたい。

5. 自分が市長だったら、こんなまちづくりを提案します！

人口を増やすために湖西市で有名なものを湖西  
 市のインスタ<sup>のうた</sup>みたいなものでせんでんすること人口  
 が増えたり、町が活気づいたりというメリットがあ  
 ります。湖西市の公共施設を使ってイベントを行  
 たりすれば、市民の人も楽しめるし人をよびおこ  
 もできます。でも、やはり湖西市には、湖西市にしか  
 ない歴史や自然があるのでそこもきつづとせんで  
 んしていく必用があると考えました。そこで人口を増  
 やして町を活気づける町づくりをすることを提案しま  
 す。

5. 自分が市長だったら、こんなまちづくりを提案します！

自然豊かな湖西市のよさを生かし、キャンプ場  
 や、自然とふれあいなから楽しむ、アスレチック  
 パークを建設し、活気あふれるまちづくりを  
 目指していく。  
 政策) キャンプ場や、アスレチックパークの建設  
 ・ 少子高齢化に歯止めをかけるために  
 子供を、気楽にあずかる場所をつくる。  
 ・ 有名人を呼び、イベントを開く。  
 ・ 交通面を、整備し、他県からの  
 観光客を取り入れる。  
 ・ ぐらしやすくなるような、マンションを建設

5. 自分が市長だったら、こんなまちづくりを提案します！

湖西市の土地の数を増やし、自然をゆたか  
 にして、湖西市の人口を増やします。湖西市の  
 景色や森林にスポットをつくり市外、県外から  
 来た人たちのためにみさせるようなイベントを  
 つくります。土地を増やした分のあまりには、道  
 路をつくりよりスムーズに自車車が乗けるよう  
 にし、交通事故をなくするために、信号のセキリ  
 をアップさせるようにします。

5. 自分が市長だったら、こんなまちづくりを提案します！

自然豊かな市にするため、ポイントをしらない標識を  
 つくったり、定期的なゴミひらいをする。  
 活気のある市にするため、イベントをかいさいしたり、キャ  
 クターをつくったり、観光スポットをつくる。  
 大きな総合施設やショッピングモールをつくらせやす  
 するために、いらぬ建物をおほい土地を広げる。

5. 自分が市長だったら、こんなまちづくりを提案します！

わたしが市長だったら、いろいろな年齢の人が集まるように、大きな  
 お店を作ったり、広めの公園などを作り、せつにつくる。イベントを  
 ひらいたりすることを提案します。大きな公園は、ここのが遊  
 べるから、たんなる町のスペースと小学生が遊べる大きな遊具の  
 スペースを作れば、いろいろな人が遊べる。自然が、たから自然  
 (お水) つかいにして、たからたからする。

5. 自分が市長だったら、こんなまちづくりを提案します！

観光などにいなるように、浜名湖が海の近くなどに、ホ  
 テルやマンションなどをスズ景色のよいいスポットにな  
 るようなとが、さかな食べ物などのイベントを開くなど  
 注目を強うさせたい。安全で、事故などを減ら  
 するために、信号を増やしたり、オーブミラーな  
 どを増やしたり、板をたてたりなど、安全につい  
 てちと整備していく。自然を豊かにして、いくた  
 めに環境についてCO<sub>2</sub>を出さないようにしたり、作物  
 などを作っていく。

5. 自分が市長だったら、こんなまちづくりを提案します！

わたしが市長だったら、安心安全な町づくりにしたいです。  
 理由は2つあります。1つ目は、安心です。市民が「災害」など  
 であつた人をさくしている人もたくさんいるから。2つ目  
 の安全は、事故のことです。事故は、交通ルールを守らなかつた  
 り守らなかつたのに事故がおこるうんが、たからあります。そのこ  
 がないうに、判断をしてほいたいことを提案したいです。市民  
 たちが毎日、笑顔で過して平和にほらしたいまちづくりにしたい  
 です。

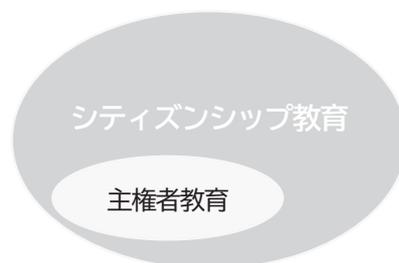
小学校6年  
 社会科総合的な学習

## 2年間の研究をふり返って

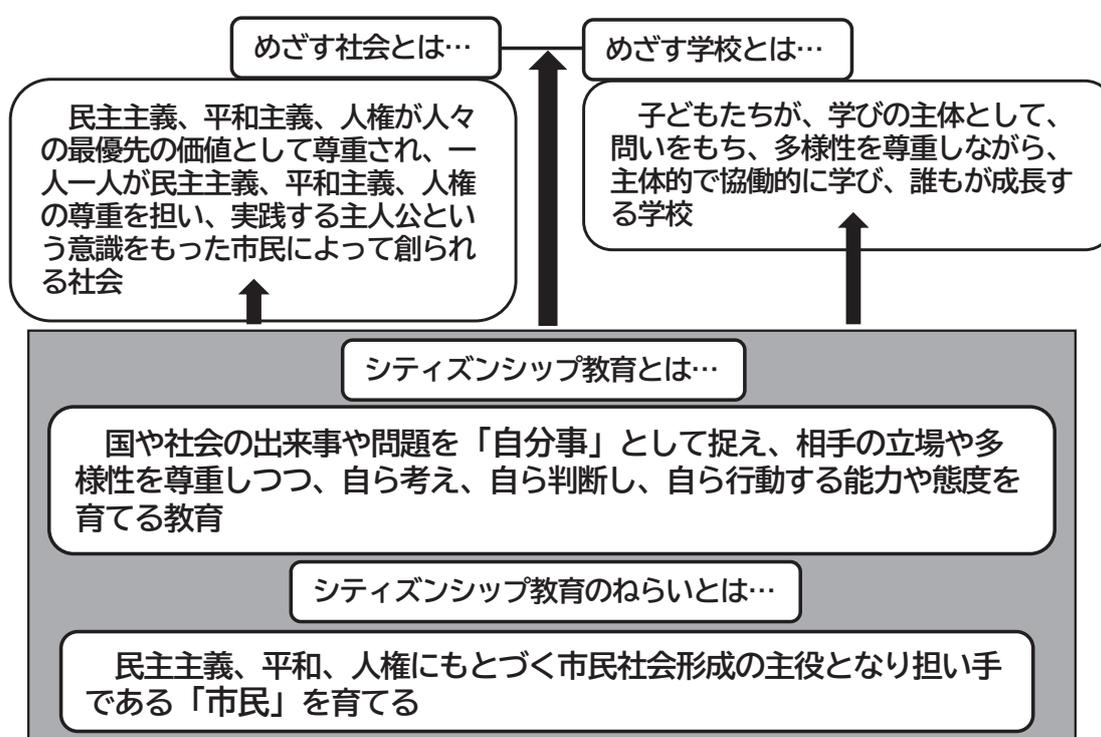
### 1 「シティズンシップ教育研究委員会」の押さえと研究内容

教育研究所ではシティズンシップ教育について、2015年から研究をすすめ、2018年に「シティズンシップ教育研究委員会」を立ち上げ、研究実践を重ねてきています。

2015年に公職選挙法が改正され、18歳からの選挙権行使という制度変更により、主権者教育が有権者教育に特化されたり、投票を促すための教育というように矮小化されたりしてはならないという見解に立ち、平和な民主主義社会を生きる市民としての民主的人格をどう育てるかという教育が大事であると考え、主権者教育ではなく、「シティズンシップ教育」としました。両者の関係性は、左の図のように考えます。



シティズンシップ教育とは何か、シティズンシップ教育のねらいは何かについては、下記の図に示します。



### 2 実践と考察

所員による2年間の授業実践は次のとおりです。

#### ○総合的な学習の時間

- ・町探検を通じて、温かい町の人たちとふれあい「人と人とのつながりの大切さ」を子どもたちが感じ、自分たちの町を誇りに思う意識が育っていく特別支援学級での実践でした。
- ・子どもたちが様々な仕事のゲストティチャーに触れ、ドリームマップを作成することで、「働く」ことの意義を「自分事」として感じとることができた実践でした。
- ・ようこそ先輩の授業で、多くの方から話を伺い、生き方について考え、自分自身はどうありたいか、そのためにはどうしたらよいかを子どもたちが考えることができた実践でした。子どもたちの働くことに対する考えの変容がみられました。

### ○生活科

学校探検を通じて、学校生活の、人・もの・ことと関わり、子どもたち一人一人が周囲の様々な人と共に生きていること、そして自分の存在の大切さを感じることができた実践でした。1年生なりに、社会の中で生きる自分を意識している姿が参考になりました。

### ○学級会、児童会活動

学校の50周年記念イベントを委員会の活動としてすすめていく実践でした。日ごろの学級会で培われた「小さな合意形成」が生きていました。子どもたちが主体となり、学校の教育活動を自分事としてとらえる姿が見られました。

### ○道徳科

自分の気持ちを割合で示す心情円を活用し、自分が題材をどう考えたのか視覚化し、さらに自分の考えを深め、主題を自分事として捉えていきました。日々の教育活動が、シティズンシップ教育に繋がっていることを再確認できる実践でした。

### ○社会科（公民）

「環境権」に注目し、過去にあったコンビナート計画を題材にとりあげ、子どもたちが地域社会の出来事を多面的に考察し、地域の一員として意識をもっていく実践でした。また、所員の幅広い活動によりシティズンシップ教育が他の方へも広がっていきました。

### ○英語科、生徒会活動

生徒たちが住んでいる町の良さと現状を知り、英語で説明を考えました。委員会活動では、地域の現状をさらに調べ、その中で、地域の伝統のつるし飾りに注目し活動したことで、生徒たちに地域を誇りに思う気持ちや、地域の一員の自覚が芽生えていきました。

— 実践募集から —

### ○社会科、総合的な学習の時間

湖西市の「1日市長体験」をきっかけに、子どもたちが地域について考えていけるよう計画的にすすめられた実践でした。子どもたちがまとめたワークシートの言葉には、市への強い思いや、地域愛があふれていました。

## 3 実践研究を通して見えてきたこと

(1) 様々な教科・領域におけるとりくみや日々の教育活動がシティズンシップ教育につながる

#### ① 「なぜ・どうする」と問い続ける子ども

子どもたちが自分を取りまく現状や環境に対して、なぜと問いをもち、どうすると考え実行していくことが、自己実現や自己実現につながり市民としての第一歩になります。

#### ② 多様性を尊重し、他者と関わりながら共に成長する子ども

様々な事象を幅広く、多面的・多角的に捉え、多様性を学び、理解・尊重することによって視野を広げ自らの問いにアプローチする。その中で、多くの人たちと関わり、話し合い、問題解決にとりくむことが子どもたちの成長につながります。

(2) シティズンシップ教育を通して子どもたちを育てる

2022年4月1日「民法の一部を改正する法律」施行により、成年年齢が18歳に引き下げられました。これにより小中学校に新たな視点によるシティズンシップ教育が求められます。

子どもたちを取りまく身の回りの社会、そして世界は、紛争・自然災害・異常気象等の課題や問題が山積した厳しいものです。その中を、一人の市民として子どもたちが生きていくために、シティズンシップ教育が重要になります。

子どもたちにシティズンシップの資質や能力、態度を身に付けるために、難しく考えるのではなく学校の教育活動をシティズンシップ教育の視点で捉え、みなさんの身近なことから実践していただけることを願います。

## シティズンシップ教育研究委員会（2022～2023年度）

### 共同研究者

井柳 美紀（静岡大学 教授）

三浦 哲司（名古屋市立大学 准教授）

### 所 員

青山 千秋（静岡教組） 2022

小出 光大（静岡教組） 2023

山本百合奈（賀茂支部）

加藤 祐子（東豆支部）

今泉 伸隆（沼津支部）

佐藤 香織（富士支部）

芹沢 相信（榛原支部）

松井有理子（磐周支部） 2022

坂本 成海（磐周支部） 2023

### 事務局

内田いづ美

福代 淳子 2022

宅見 真弓 2023

藪崎 哲郎

山田 清和 2023

社会・地域の出来事や課題を「自分事」として捉え、  
自ら考え、判断し行動する子どもを育てるために

～シティズンシップ教育実践集～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「シティズンシップ教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発 行 者／教育研究所運営委員長 赤池浩章

発 行 日／2024年2月



# 静岡県教育事業団体のサポート

～県内の児童・生徒，教職員，保護者の皆様に向けて～

## 『これで安心!!新1年生』

後援：静岡県PTA連絡協議会

「新1年生をもつ保護者の皆様のご不安・ご心配が，少しでも小さくなったらいいな。」

「入学する子どもさんと家の方が一緒になってうきうきしながら入学準備ができたらいいな。」

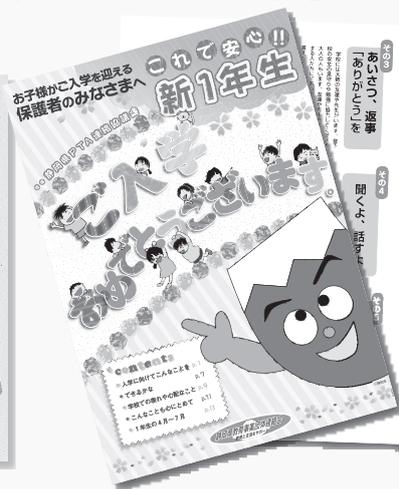
「保護者と学校とが素敵につながるためのお役に立てたらいいな。」

こんな思いを込めて作成しました。

○保護者から届いたメッセージ○

この冊子で，自分ができていた事，やらなければいけない事がはっきりわかり，これから入学するにあたって不安がいっぱいでしたが，できる事からはじめようと思いました。まずは，「できるかな」を子どもと一緒にやってみようと思いました。とても具体的でわかりやすいので楽しみながらやってみようと思います。ずっと保存して時々読み返そうと思います。

(S市・Aさん)



入学に向けてこんなことを

小・中・高・特別支援学校から届いたメッセージ

教員から届いたメッセージ

QRコード

『これで安心!!新1年生』への感想はこちらから

## 教育講演会



「教育講演会」は，静岡県下の教職員並びに教育関係者の皆様が知識と教養を高めるとともに，地域社会の文化の向上に寄与することを目的に，昭和50年から実施しています。

令和4年度には，各地区運営委員会の企画のもと，21会場で開催し(リモート開催を含む)，約8,000名の小・中・高・特別支援学校の教職員や教育関係者の皆様にご聴講いただきました。

令和5年度の講演にご期待ください。(新型コロナウイルス感染拡大等で縮小せざるを得ない場合があることをご了承ください。)

## 静岡県教育事業団体



### 一般財団法人 静岡県教職員互助組合

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 2F TEL:054-254-3626  
互助組合ホームページへは，



### 一般社団法人 静岡県出版文化会

静岡市駿河区曲金 5-5-38 (株)静岡教育出版社2F TEL:054-270-5800  
出文ホームページへは，



### 株式会社 静岡教育出版社

静岡市駿河区曲金 5-5-38 TEL:054-281-8870  
出版社ホームページへは，



### STC 静岡県教職員生活協同組合

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL:054-282-2140  
教職員生協ホームページへは，



### STC 静岡県学校生活協同組合連合会

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL:054-282-2166  
URL <http://www.kyousyokuin-seikyo.com/link/rengoukai/>



### 公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 4F TEL:054-205-5130  
静岡教弘ホームページへは，



## 地区を支える学校生活協同組合等

- |                            |               |
|----------------------------|---------------|
| 賀茂地区学校生活協同組合               | ☎0558-22-1115 |
| 田方地区学校生活協同組合               | ☎0558-76-8224 |
| 東豆地区学校生活協同組合               | ☎0557-37-8766 |
| 三島地区学校生活協同組合               | ☎055-981-0521 |
| 静岡県駿沼学校生活協同組合              | ☎055-921-0333 |
| 富士地区学校生活協同組合               | ☎0545-35-7272 |
| (有)静岡教育サービス(旧静岡地区学校生活協同組合) | ☎054-257-0701 |
| 志太地区学校生活協同組合               | ☎054-634-1166 |
| 榛原地区学校生活協同組合               | ☎0548-22-1355 |
| 小笠地区学校生活協同組合               | ☎0537-24-1617 |
| 磐田周智地区学校生活協同組合             | ☎0538-35-1830 |
| 浜松市学校生活協同組合                | ☎053-482-7241 |

**<http://www.stu.jp/>**



最後までお読みいただきありがとうございました。

この所報をお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。

皆さんからいただいたご意見・ご感想は、今後の研究活動や成果発信に生かします。

**STU Institute of Educational Research**  
**静岡県教職員組合立教育研究所**

**FAX: 054-255-5110**